

【表紙】

| | |
|------------|----------------------------------|
| 【提出書類】 | 有価証券報告書 |
| 【根拠条文】 | 金融商品取引法第24条第1項 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 平成25年3月29日 |
| 【事業年度】 | 第4期（自平成24年1月1日至平成24年12月31日） |
| 【会社名】 | 株式会社ブロードリーフ |
| 【英訳名】 | Broadleaf Co., Ltd. |
| 【代表者の役職氏名】 | 代表取締役社長 大山 堅司 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都品川区東品川四丁目13番14号 |
| 【電話番号】 | (03)5781-3100(代表) |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役管理本部長 山中 健一 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都品川区東品川四丁目13番14号 |
| 【電話番号】 | (03)5781-3100(代表) |
| 【事務連絡者氏名】 | 取締役管理本部長 山中 健一 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) |

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

提出会社の状況

| 回次 決算年月 | 第1期 平成21年12月 | 第2期 平成22年12月 | 第3期 平成23年12月 | 第4期 平成24年12月 |
|------------------------------------|----------------------------|---------------------------|---------------------------|---------------------------|
| (期間) | 平成21年9月16日～ 平成21年12月31日 | 平成22年1月1日～ 平成22年12月31日 | 平成23年1月1日～ 平成23年12月31日 | 平成24年1月1日～ 平成24年12月31日 |
| 売上高 (千円) | - | 15,168,358 | 15,317,740 | 15,641,996 |
| 経常利益又は経常損失 (千円) | 47,270 | 723,085 | 1,598,820 | 2,035,772 |
| 当期純利益又は当期純 損失 (千円) | 1,021,768 | 501,144 | 3,503,086 | 815,309 |
| 持分法を適用した場合 の投資利益 (千円) | - | - | - | - |
| 資本金 (千円) | 5,553,050 | 5,614,175 | 5,615,675 | 5,615,675 |
| 発行済株式総数 (株) | 222,122 | 224,567 | 224,627 | 22,462,700 |
| 純資産額 (千円) | 10,084,331 | 10,607,764 | 14,213,812 | 15,018,428 |
| 総資産額 (千円) | 19,645,593 | 21,981,248 | 23,515,160 | 22,619,034 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 45,399.97 | 47,236.52 | 632.77 | 668.59 |
| 1株当たり配当額 (うち1株当たり中間 配当額) (円) | - (-) | - (-) | - (-) | - (-) |
| 1株当たり当期純利益 金額又は当期純損失金 額 (円) | 8,789.28 | 2,238.14 | 155.96 | 36.30 |
| 潜在株式調整後1株当 たり当期純利益金額 (円) | - | - | - | - |
| 自己資本比率 (%) | 51.3 | 48.3 | 60.4 | 66.4 |
| 自己資本利益率 (%) | - | 4.8 | 28.2 | 5.6 |
| 株価収益率 (倍) | - | - | - | - |
| 配当性向 (%) | - | - | - | - |
| 営業活動による キャッシュ・フロー (千円) | - | 2,271,797 | 2,999,562 | 3,237,990 |
| 投資活動による キャッシュ・フロー (千円) | - | 427,168 | 558,102 | 760,149 |
| 財務活動による キャッシュ・フロー (千円) | - | 1,513,470 | 2,012,286 | 1,796,824 |
| 現金及び現金同等物の 期末残高 (千円) | - | 2,494,466 | 2,923,640 | 3,604,657 |
| 従業員数 (人) | - | 891 | 881 | 845 |

- (注) 1. 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 3. 第1期の売上高については、設立後、期末までの間に取引活動がなかったため記載しておりません。
 4. 持分法を適用した場合の投資利益については、第1期は関連会社の損益等に重要性が乏しいため記載しておりません。第2期以降は関連会社が存在しないため記載しておりません。
 5. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第1期は、1株当たり当期純損失であり、また潜在株式が存在しないため記載しておりません。第2期以降は、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。
 6. 自己資本利益率については、第1期は当期純損失が計上されているため記載しておりません。
 7. 株価収益率については、当社株式は非上場であるため、記載しておりません。
 8. 1株当たり配当額及び配当性向については、第1期から第4期まで配当を行っておりませんので、記載しておりません。
 9. 当社は第2期よりキャッシュ・フロー計算書を作成しておりますので、第1期のキャッシュ・フロー計算書に係る各項目については記載しておりません。
 10. 第2期以降の財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任 あずさ監査法人の監査を受けておりますが、第1期の財務諸表については、当該監査を受けておりません。
 11. 当社は、平成21年9月16日付で旧株式会社ブロードリーフがカーライル・グループをスポンサーとするマネジメント・パイアウト(以下、「MBO」という)を実施するため、旧ブロードリーフ株式の取得を目的とする特別目的会社(SPC)として、シー・ビー・ホールディングス株式会社の商号で設立されました。その後、平成22年1月1日付で両社を統合し、当社を存続会社、旧株式会社ブロードリーフを消滅会社として吸収合併を行い、また同日付で商号をシー・ビー・ホールディングス株式会社から、株式会社ブロードリーフへ商号変更を行い、実質的に事業を継承いたしました。
 12. 第1期は、平成21年9月16日から平成21年12月31日までの3か月と15日間であります。
 13. 第4期より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 平成22年6月30日)を適用しております。
第4期において1株につき100株の株式分割を行いました。第3期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。
なお、第1期の期首に当該株式分割が行われたと仮定した場合の1株当たり指標の推移を参考までに掲げると以下のとおりとなります。

| 回次 決算年月 | 第1期 平成21年12月 | 第2期 平成22年12月 |
|--------------------------------|-----------------|-----------------|
| 1株当たり純資産額 (円) | 454.00 | 472.37 |
| 1株当たり当期純利益金額又は当期 純損失金額 (円) | 87.89 | 22.38 |
| 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円) | - | - |
| 1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円) | - (-) | - (-) |

14. 当社は、平成24年9月18日付で株式1株につき100株の分割を行っており、その結果、発行済株式総数は22,462,700株となっております。

(参考情報)

平成22年1月1日に当社との合併により消滅した旧株式会社ブロードリーフの主要な経営指標等の推移は次のとおりであります。

旧株式会社ブロードリーフの状況

| 回次 決算年月 | 第4期 平成20年12月 | 第5期 平成21年12月 |
|--------------------------------|-----------------------|-----------------------|
| 売上高 (千円) | 14,545,293 | 14,503,658 |
| 経常利益 (千円) | 1,694,028 | 1,729,983 |
| 当期純利益 (千円) | 1,466,442 | 1,523,252 |
| 持分法を適用した場合の投資利益 (千円) | - | - |
| 資本金 (千円) | 1,500,000 | 1,500,000 |
| 発行済株式総数 (株) | 315,200 | 315,200 |
| 純資産額 (千円) | 4,438,517 | 6,177,401 |
| 総資産額 (千円) | 8,294,958 | 9,526,717 |
| 1株当たり純資産額 (円) | 14,081.59 (140.82) | 19,598.36 (195.98) |
| 1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配当額) (円) | - (-) | - (-) |
| 1株当たり当期純利益金額 (円) | 4,652.42 (46.52) | 4,832.65 (48.33) |
| 潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円) | - | - |
| 自己資本比率 (%) | 53.5 | 64.8 |
| 自己資本利益率 (%) | 38.4 | 28.7 |
| 株価収益率 (倍) | - | - |
| 配当性向 (%) | - | - |
| 従業員数 (人) | 991 | 913 |

(注) 1. 同社は連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社の損益等に重要性が乏しいため記載しておりません。

4. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 株価収益率については、当社株式は非上場であるため、記載しておりません。

6. 1株当たり配当額及び配当性向については、第4期から第5期まで配当を行っておりませんので、記載しておりません。

7. 第4期及び第5期の財務諸表については、有限責任 あずさ監査法人による監査は受けておりません。

8. 当社は平成24年9月18日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。参考として旧株式会社ブロードリーフに関する1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を100で除した数値を()で記載しております。

2【沿革】

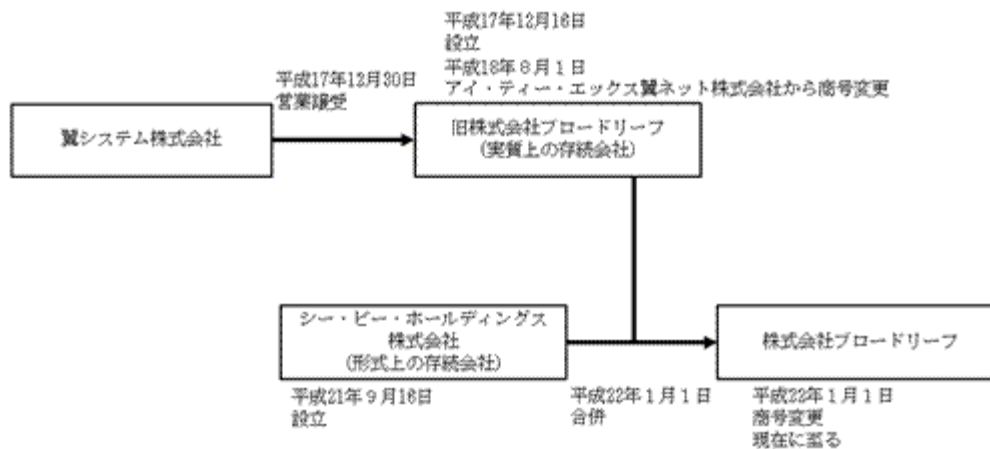
当社（形式上の存続会社）は、カーライル・グループの支援の下、平成21年9月16日、当社の実質的な存続会社である株式会社ブロードリーフ（以下、「旧株式会社ブロードリーフ」という）の経営陣によるマネジメント・バイ・アウト（MBO）のための受皿会社として、シー・ビー・ホールディングス株式会社の商号で設立されました。その後、平成21年11月13日に株式譲渡により旧株式会社ブロードリーフ（実質上の存続会社）を完全子会社化し、平成22年1月1日、旧株式会社ブロードリーフを吸収合併することで営業活動を全面的に継承すると同時に、株式会社ブロードリーフに商号変更し、現在に至っております。

実質上の存続会社である旧株式会社ブロードリーフは、平成17年12月30日の翼システム株式会社からの「パッケージソフトウェア事業」の営業譲受以降、アイ・ティー・エクス株式会社の子会社の1社として事業を行ってまいりました。その後、短期的な業績変動にとらわれず、平成20年のリーマン・ショックを機に激変していた自動車業界の環境変化に対応し、持続的な成長基盤の構築や海外展開の推進を行うことを目的とし、MBOを実施しました。

従いまして、以下におきましては、当社の事業を平成17年12月以前に行っておりまして、翼システム株式会社のパッケージソフトウェア事業、実質上の存続会社である旧株式会社ブロードリーフ及び、当社（形式上の存続会社）の沿革につきまして記載しております。

当社の設立から現在に至るまでの沿革を図示しますと、下図のようになります。

<当社の変遷>



<当社（形式上の存続会社）の沿革>

| 年 月 | 概 要 |
|----------|---|
| 平成21年 9月 | シー・ビー・ホールディングス株式会社を設立（東京都千代田区）。 |
| 平成21年11月 | 旧株式会社ブロードリーフの全株式を取得し、同社を完全子会社とする。 |
| 平成22年 1月 | 旧株式会社ブロードリーフを吸収合併し、同日、株式会社ブロードリーフに商号変更。 |
| 平成22年 3月 | 本社を品川区に移転。 |
| 平成22年12月 | 株式会社メイクウェーブ・ジャパンの事業を譲受、同社を解散。 外国語教育のデジタルコンテンツASPサービスを行う株式会社WEICとの業務提携を開始。 |
| 平成23年 3月 | テレビ電話会議システムに強みを持つ株式会社SOBAプロジェクトとの業務提携を締結。 |
| 平成23年 5月 | 自動車リサイクル業務全般をサポートする「PM.NS RCオプション」の販売を開始。 自動車リサイクル部品の流通活性化のため、「楽天オークション」と「PM.NS RCオプション」の連携を開始。 |
| 平成23年12月 | 情報漏えい対策ソフトウェア「NetSpike(ネットスパイク)」の販売を開始。 高画質テレビ会議システムASPサービス「BL Meeting(ビーエルミーティング)」の販売を開始。 自動車アフターマーケットにおける業者間の問い合わせや受発注業務をシームレスに行える「BLパーツオーダーシステム(ビーエルパーツオーダーシステム)」及び事業者同士の音声通話、動画通話、画像共有などを行える「BL . Communication (ビーエルコミュニケーション)」のサービス提供を開始。 |
| 平成24年 7月 | 場所を選ばず顧客へ車検提案ができるタブレット端末「Carpod Tab (カーポッドタブ)」の販売を開始。 |
| 平成24年10月 | 次世代ファイル管理システム「Ex@Pad (エグザパッド)」の販売を開始。 |
| 平成25年 3月 | 中国の安徽省合肥市に博楽得信息科技(合肥)有限公司を子会社として設立。 東京証券取引所市場第一部に株式を上場。 |

<翼システム株式会社のパッケージソフトウェア事業に関する沿革>

| 年 月 | 概 要 |
|----------|---|
| 昭和58年2月 | 翼システム株式会社設立（東京都江東区）。 |
| 昭和58年8月 | 自動車部品商向けシステム「パーツマン」の販売を開始。 |
| 昭和61年6月 | 自動車整備業向けシステム「スーパーフロントマン」の販売を開始。 |
| 平成3年6月 | 自動車钣金塗装業向けシステム「スーパーフロントマン」の販売を開始。 |
| 平成5年1月 | 機械工具商向けシステム「機工メイト」の販売を開始。 |
| 平成5年12月 | 中古車販売業向けシステム「スーパーフロントマン」の販売を開始。 |
| 平成10年3月 | 携帯電話販売代理店向け総合管理システム「携帯7」の販売を開始。 |
| 平成12年7月 | 自動車用リサイクル部品共有在庫ネットワーク「パーツステーションNET」を構築、リサイクル部品決済代行サービス提供を開始。 |
| 平成14年8月 | 旅行代理店向けシステム「旅行プレゼン」システムの販売を開始。 |
| 平成16年4月 | 旅行業界向けシステム「SFバス運行システム」の販売を開始。 |
| 平成16年6月 | マイクロソフト株式会社と自動車業界向け各種ソリューションのMicrosoft.NET（マイクロソフトドットネット）対応で提携。 |
| 平成17年11月 | 自動車钣金見積ネットワークシステムBK.NS(ビーケードットエヌエス)の先行販売を開始。 |
| 平成17年12月 | アイ・ティー・エクス翼ネット株式会社を子会社として設立。 「パッケージソフトウェア事業」を営業譲渡。 |

<旧株式会社ブロードリーフ（実質上の存続会社）の沿革>

| 年 月 | 概 要 |
|----------|--|
| 平成17年12月 | 翼システム株式会社のパッケージソフトウェア事業を行うことを目的として、アイ・ティー・エクス翼ネット株式会社を設立（東京都江東区）。 パッケージソフトウェア事業(システム販売分野、サブライ販売分野、データメンテナンスサービス分野、保守サービス分野、手数料・課金・その他分野)を翼システム株式会社から譲り受け、業務を開始。 |
| 平成18年1月 | アイ・ティー・エクス株式会社を相手先とした第三者割当増資(増額資本金15,750百万円)を実施し、同社の連結子会社となる。 |
| 平成18年8月 | 株式会社ブロードリーフに商号変更。 本社を東京都品川区に移転。 |
| 平成18年9月 | ジャシイ株式会社の株式を取得し、関連会社とする。 自動車整備ネットワークシステム「SF.NS(エスエフドットエヌエス)」並びに車両販売ネットワークシステム「CS.NS(シーエドットエヌエス)」の販売を開始。 |
| 平成19年1月 | 携帯電話販売代理店向け業務システムの新商品、「携帯7PRO(プロ)」の販売を開始。 |
| 平成19年11月 | 中古車販売業向け業務システムの新商品、「VX.NS(ブイエックスドットエヌエス)」の販売を開始。 自動車販売支援ポータルサイト、「Carpod.jp(カーポッドジェーピー)」の運営を開始。 |
| 平成20年5月 | 株式会社SJホールディングス(現株式会社SJI)と中国でのオフショア開発(1)について業務提携の覚書を締結。 |
| 平成20年9月 | 通信事業強化のため、株式会社メイクウェーブ・ジャパンの株式を取得し子会社化する。 |
| 平成20年12月 | 携帯電話販売代理店向け業務システムの新商品、「MK.NS(エムケードットエヌエス)」の販売を開始。 |
| 平成21年3月 | 自動車部品流通支援システムの新商品、「PM.NS(ピーエムドットエヌエス)」の販売を開始。 |
| 平成21年10月 | ジャシイ株式会社より作業改善ツール「OTRS(オーティーアールエス)」事業の譲受、販売を開始。 ジャシイ株式会社を解散。 |
| 平成21年11月 | 自動車钣金フロントネットワークシステムの新商品、「BF.NS(ビーエフドットエヌエス)」の販売を開始。 「産業プラットフォーム」戦略を推進するため、カーライル・グループとの協働のもと、シー・ピー・ホールディングス株式会社(平成21年9月にカーライル・グループによって設立された会社)が当社株式を全部取得し、当社(2)はシー・ピー・ホールディングス株式会社の完全子会社となる。 |
| 平成22年1月 | シー・ピー・ホールディングス株式会社が当社を吸収合併し、消滅会社となる。 |

- (1) オフショア開発とは、システムの開発や運用管理等を海外の企業に委託することをいいます。
(2) 上記表中の「当社」は旧株式会社ブロードリーフを指します。

3【事業の内容】

当社グループは、当社及び非連結子会社2社（プラエセンス株式会社、博楽得信息科技有限公司（合肥）有限公司）で構成されています。

当社グループは、「感謝と喜び」という経営理念のもと、IT技術を駆使して顧客の事業創造を支援し、顧客と共に繁栄する事業創造のパートナーとなるべくITサービス事業を行ってまいりました。当該事業において、当社は主に自動車アフターマーケット（1）業界をはじめとする市場に、当社が提供する「産業プラットフォーム（2）」上でのITサービスにより当社が考える産業構造の改革を推進しております。

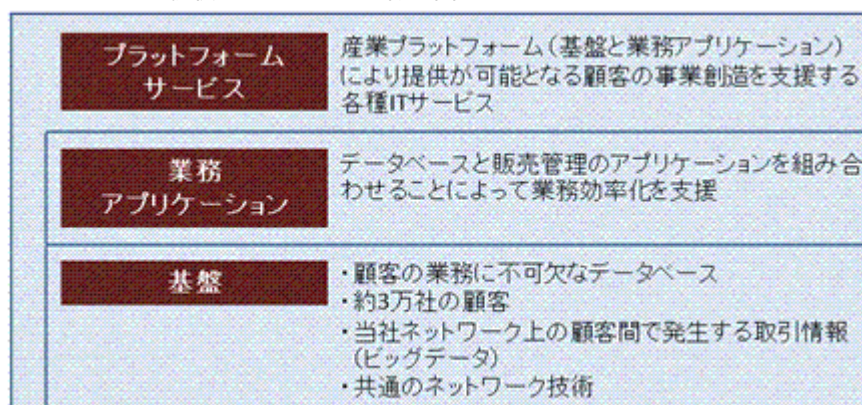
具体的には、「産業プラットフォーム」の基盤となるものとして、過去30年近くにわたり蓄積してきた事業運営上欠かせない各種情報データベース（3）と約3万社の顧客基盤、そして「産業プラットフォーム」上で発生するその顧客間の取引から得られる情報（ビッグデータ（4））、共通のネットワーク技術があります。この基盤となるデータベース、顧客基盤、情報、ネットワーク技術を利用して、自動車アフターマーケット関連事業者（整備事業者、钣金事業者、リサイクル事業者、部品卸商（以下、「部品商」）等）、携帯電話販売代理店、旅行取扱い業者等の各業種向けに業務効率化のための業務アプリケーションを提供してきております。当社の業務アプリケーションをネットワークにより結びつけることで、顧客が企画立案、コミュニケーション、意思決定、請求書発行、代金決済等を行う際に必要となる情報が「産業プラットフォーム」上に集約されます。その「産業プラットフォーム」を利用したITサービスで顧客の価値ある提案を支援する、経営の効率化を促す、新規事業の機会を創出する等の顧客の事業創造も支援しております。

当社は、このように顧客の事業創造を支援する情報を最適な形で迅速かつ低コストで顧客に届ける「産業プラットフォーム」上でのITサービスにより、労働集約型や資本集約型の産業がより知識集約型の産業へと変化をもたらすことを促し、当社が考える産業構造の改革に努めております。（下記の概念図を参照）

なお、当社はネットワークを介した業種特化型の業務アプリケーションの提供、当社顧客に対する保守、サプライ品の提供、「産業プラットフォーム」上で提供する各種ネットワークサービスを行っており、当該事業はシステム販売分野、システムサポート分野、及びネットワークサービス分野の3分野で構成されております。なお、当社は単一セグメントであるため、上記分野別の記載を行っております。

- 1 「自動車アフターマーケット」とは、自動車が販売されてから発生する、自動車のメンテナンスや用品取り付けなどの二次市場を指します。
- 2 「産業プラットフォーム」とは、特定産業のビジネスにおいて顧客が企画立案、コミュニケーション、意思決定、請求書発行、代金決済等のビジネスシーンにおいて利用されるビジネス上の情報基盤（プラットフォーム）を指します。
- 3 当社における「データベース」とは各種車両情報（メーカー車種、型式別）、自動車部品情報、装備品情報、指数情報（補修作業に要する時間を定めたもの）、リサイクル部品情報等の当社が提供したデータを指します。
- 4 「ビッグデータ」とは、主に非定型でリアルタイム性が高い大量データを指します。最近、このビッグデータを高速に処理・分析するための様々な手法が検討され、ビジネスの場においてもこの手法を使って新たなビジネス創出や予測・予防などに活用することに注目が集まっています。当社においては、顧客が取引等のなかで入力した車両修復情報、部品受発注情報、リサイクル部品登録情報などの大量のデータを指します。

「産業プラットフォーム上で提供するITサービス概念図」



(1) 事業の概要

当社は、自動車の新品・リサイクル部品を始め、日々更新される部品関連情報等のデータを一元的に集約し、顧客である自動車アフターマーケット関連事業者が「産業プラットフォーム」を利用し、カーオーナーに対する付加価値を高めることで、自動車アフターマーケット業界の活性化を目指しております。

当社は現在、主に自動車アフターマーケットの顧客の事業創造を支援する「産業プラットフォーム」上でのITサービスの拡大を図っており、当社が考える産業構造の改革を目指しております。このITサービスは、システム販売分野、システムサポート分野、ネットワークサービス分野の3分野に分かれています。システム販売をした顧客に対する付帯サービスがシステムサポート分野、ネットワークサービス分野となっており、同一顧客に対するサービスとなっております。

当社は、毎年多くの新車が発売される中で自動車1台当たり約3万点ともいわれる自動車部品情報を迅速にデータベースとして一元化、販売管理のシステムと連動して提供することで、自動車アフターマーケット関連事業者における見積業務等の業務を効率化するアプリケーションを各業種向けに提供してまいりました。その後、IT環境の進化に伴い、顧客の業務効率化に留まらず事業創造を支援するサービスとして平成12年からリサイクル部品決済代行サービスを開始、商取引における各事業者に通のクラウド技術を利用したネットワーク型業務アプリケーションの販売を平成17年より開始しました。平成23年からは、このネットワーク型業務アプリケーションを利用し、顧客の事業創造のための新しいサービスとして、BLパーツオーダーシステムやBL.Communicationを活用した業種間連携サービス、Carpod Tab（タブレット端末（iPad等））を活用した最終消費者に対する事業者の提案力支援サービスなどサービス範囲を拡大しております。

<当社ITサービス事業の概要>

| ネットワーク区分 | ITサービス事業 | | |
|----------|---|--|--|
| | システム販売分野 | システムサポート分野 | ネットワークサービス分野 |
| ネットワーク型 | <ul style="list-style-type: none"> 「産業プラットフォーム」における業種特化型業務アプリケーション | <ul style="list-style-type: none"> 保守 サプライ | <ul style="list-style-type: none"> データベース提供サービス サーバー提供サービス リサイクル部品決済代行サービス BLパーツオーダーシステム BL.Communication Carpod Tab 他 |
| スタンドアロン型 | <ul style="list-style-type: none"> 業種特化型業務アプリケーション等 その他アプリケーション | | <ul style="list-style-type: none"> データベース提供サービス |

システム販売分野

システム販売分野は、主に「産業プラットフォーム」における業種特化型業務アプリケーションの販売を行っております。また、一部スタンドアロン型の業種特化型業務アプリケーションの販売も行っております。当社の業種特化型の業務アプリケーションは、特定業種固有の業務フロー、見積及び請求管理等の汎用的な顧客ニーズを織り込んでおります。また、当社は、パソコンに当該業務アプリケーションを搭載して顧客に販売しており、併せて液晶ディスプレイ、タブレット端末（iPad等）、プリンタ、周辺機器などのハードウェアを販売しております。さらに顧客ニーズに応じて受託型のシステム開発も行っております。システムの販売に際しては、システムの使用権を当社がリース会社に販売し、リース会社が顧客へ主に6年でリース販売する契約形態が多くなっております。以下に、主な業種特化型の業務アプリケーションを示します。

(a) ネットワーク型業務アプリケーション

| 主な顧客 | | 主なアプリケーション名称 | アプリケーションの内容・機能 |
|---------------------------|-----------------|---|---|
| 自動車 補修 事業者 | 整備事業者等 | ・SF.NS(自動車整備 ネットワークシステム) | 自動車の継続検査(車検)や一般的な整備を行う自動車整備 事業者において見積作成、車両情報(故障履歴、修理履歴 等)から最適な提案を行うことをサポートするアプリケー ション |
| | 鈹金事業者等 | ・BK.NS(自動車鈹金見積 ネットワークシステム) | 自動車車体整備事業者において3D画像や高精細なイラスト によってよりリアルに事故情報を把握し正確な見積作成を サポートするアプリケーション |
| | | ・BF.NS(自動車鈹金フロント ネットワークシステム) | ボディのキズやヘコミなどの軽鈹金の補修作業イメージを マウスを使って損傷範囲を選択する簡単な操作で作成、印 刷できるアプリケーション |
| 自動車 補修部品 取扱い 事業者 | 部品商 | ・PM.NS(自動車部品流通支援 ネットワークシステム) | 最新のデータベースにより自動車の新品・補修部品の検 索、仕入、販売等の業務を行うことを支援するアプリケー ション |
| | リサイクル 事業者 | ・PM.NS RCオプション (自動車部品流通支援 ネットワークシステム) | 自動車リサイクル事業者向けのリサイクル部品のマーケッ ト登録、販売、仕入の効率的な業務を行うことに特化し、 「パーツステーションNET」での取引情報を分析し、最適な 生産指示を行える情報を提供するアプリケーション |
| 自動車販 売事業者 | 新車・中古車 販売事業者 | ・CS.NS(車両販売 ネットワークシステム) | 自動車販売店向けの仕入管理、販売管理、在庫管理や比較見 積機能等商談を支援するアプリケーション |
| | 中古車 販売事業者 | ・VX.NS(自動車流通支援 ネットワークシステム) | 自動車販売店における中古車販売のプロモーション支援を 目的として、在庫車両を一度の登録で複数のWebサイトに一 括掲載が可能なアプリケーション |
| 旅行取扱い事業者 | | ・TR.NS(旅行業営業支援 ネットワークシステム) | 施設データを検索、選択するだけで旅行会社における主催 旅行の行程表が作成できるなど旅行取扱い事業者の営業を 支援するアプリケーション |
| 携帯電話販売 代理店事業者 | | ・MK.NS(携帯電話販売管理 ネットワークシステム) | 簡単なタッチパネルやバーコードでの売上入力や複雑なイン センティブ計算、販売分析データの提供など携帯電話販 売代理店の販売を支援するアプリケーション |

(b) スタンドアロン型業務アプリケーション

上記(a)の主な顧客のほか、下表に記載の機械工具取扱い事業者等に対して、販売支援などを目的とする業務アプリケーションを提供しております。

| 主な顧客 | 主なアプリケーション名称 | アプリケーションの内容・機能 |
|------------|------------------------------------|---|
| 機械工具取扱い事業者 | ・機工メイト（機械工具商向け販売管理システム） | 機械工具等の仕入、販売の効率的な業務を行うことに特化し販売を支援するアプリケーション |
| ガラス商等 | ・自動車ガラス商システムSP（自動車ガラス施工・販売業向けシステム） | 自動車ガラス販売業者向けのガラス施工見積り、売上伝票発行、顧客管理、売掛請求管理などにより販売を支援するアプリケーション |
| 電装業等 | ・自動車電装業システムSP（自動車電装業向けシステム） | 自動車電装業者向けの電装修理見積り、売上伝票発行、顧客管理、売掛請求管理などにより販売を支援するアプリケーション |
| 製造業 | ・OTRS（作業改善ツール） | 主に製造工場における作業の効率化を目的として、動作分析、2種類の動画の比較再生、作業指示書作成、作業編成を主な機能としたアプリケーション |
| 法人全般 | ・BL.Meeting（次世代Web会議システム） | 異なる拠点間のコミュニケーション強化を目的として、デスクトップ共有、ホワイトボード、テキストチャット、ファイル転送を主な機能としたアプリケーション |
| | ・NetSpike（情報漏えい対策ソフトウェア） | 企業の情報漏えい対策として、セキュリティポリシー設定、ログ管理、デバイス制御、暗号化、資産管理を主な機能としたアプリケーション |

システムサポート分野

当社は、顧客の最適なビジネス環境を維持するために365日稼働のカスタマーヘルプデスクや全国35拠点（平成24年12月末現在）に専門スタッフを配置し、ネットワークやハード、サーバー等のトラブル時に迅速に対応するサポート体制を構築しており、業務アプリケーション保守サービス並びにハードウェア保守サービスを提供しております。さらに、顧客の業務遂行に欠かせない業務アプリケーションで利用する専用帳票等のサプライ品販売も行っております。

ネットワークサービス分野

ネットワークサービス分野は、主にネットワーク型の業種特化型業務アプリケーションの販売先に対する当社ネットワークを利用した付帯サービスとなっております。各サービスの内容は下記のとおりとなっております。

| 主なサービス | 主な顧客 | サービス内容 |
|---------------------|--------------------------|--|
| データベース提供サービス | 整備事業者、 鈹金事業者、 部品商、 | 新しく発売される自動車関連の車両情報や、日々更新される部品関連情報を定期的に入手・集約し、顧客との契約に基づき最新のデータベースを提供しております。対価として月額固定で代金を収受しております。 |
| サーバー提供サービス | リサイクル事業者、 中古車販売事業者等 | ネットワーク型システムは、当社サーバーを利用したシステムであるため、サーバー維持の対価として月額固定で代金を収受しております。 |
| リサイクル部品 決済代行サービス | リサイクル事業者、 部品商等 | インターネットを利用してリサイクル事業者等の販売者と部品商等の購入者との間でリサイクル部品の在庫情報を共有する国内最大規模のリサイクル部品流通ネットワーク「パーツステーションNET」を運営しております。図、図をご参照下さい。このなかで整備事業者・鈹金事業者等が自動車補修の際に利用するリサイクル部品を入手するため、部品商等に依頼を行います。依頼を受けた部品商等が「パーツステーションNET」にあるリサイクル部品を検索し、検索にヒットしたリサイクル部品を売買する際に発生する取引金額の決済を当社が代行し定率で手数料を収受しております。 |
| BLパーツオーダーシステム | 整備事業者、 鈹金事業者、 部品商、 | 自動車の新品・リサイクル部品の受発注業務をシームレスに行うことができるサービスで、自動回答や簡易検索などの機能により業務の効率化、販売機会の増大、提案力強化を支援するもので、サービスにより月額固定又は従量課金により代金を収受しております。図、図をご参照下さい。 |
| BL.Communication | リサイクル事業者等 | 顧客同士で従来、電話やFAXで行っていた商取引の情報伝達を、音声通話、動画通話、画像の共有などにより行うことでよりスムーズな商取引が可能となるもので、端末数等により月額固定で代金を収受しております。図をご参照下さい。 |
| Carpod Tab | 整備事業者 | 持ち運びが便利なタブレット端末（iPad等）を使用して、整備履歴の参照、最適な車検コース提案、画像や動画による分かりやすい説明などのカーオーナーへの提案を支援し、月額固定で代金を収受しております。図、図をご参照下さい。 |

上記のように当社のネットワークサービス分野は、自動車アフターマーケット業界における部品流通に際して、各事業者を支援するサービスとなりますが、自動車部品流通に関する一般的な流れと当社ネットワークサービス分野における主なサービスの概要は次頁の通りです。また、自動車部品流通に関する事業者が、当社の顧客となっております。

図 <自動車部品流通の流れと各サービス>

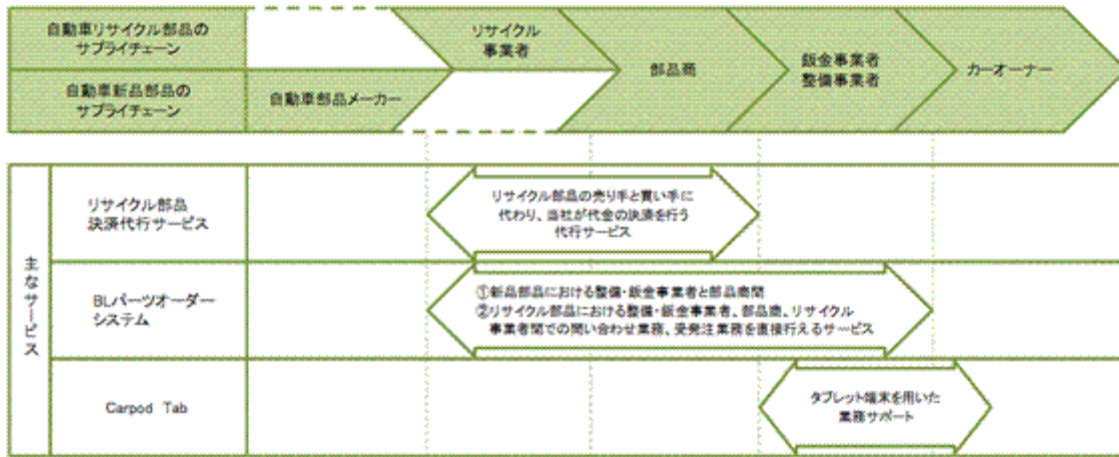


図 <「パーツステーションNET」概要>

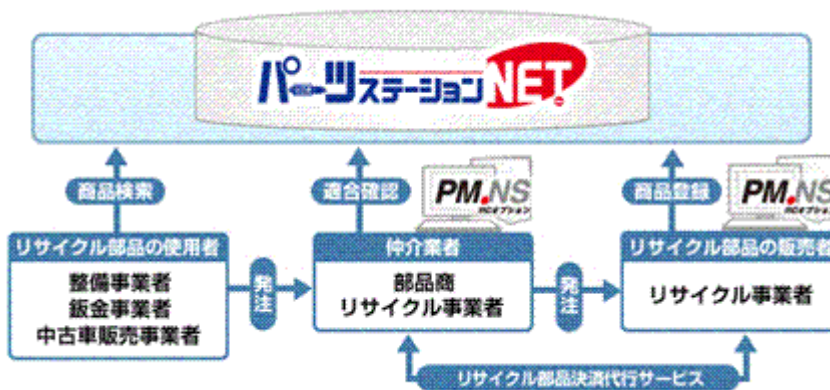
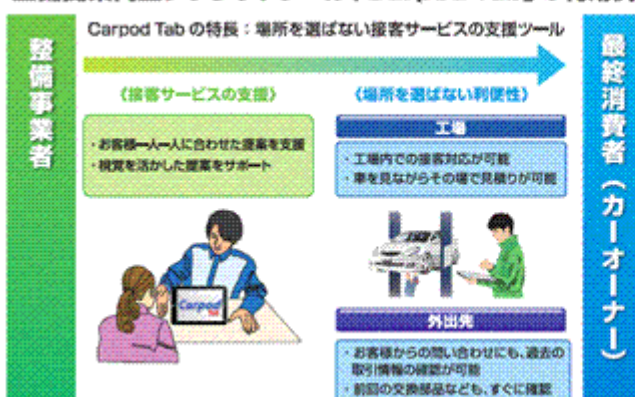


図 <業種間連携サービス「BLパーツオーダーシステム/ BL.Communication」概要>



図 <Carpod Tabサービス概要>

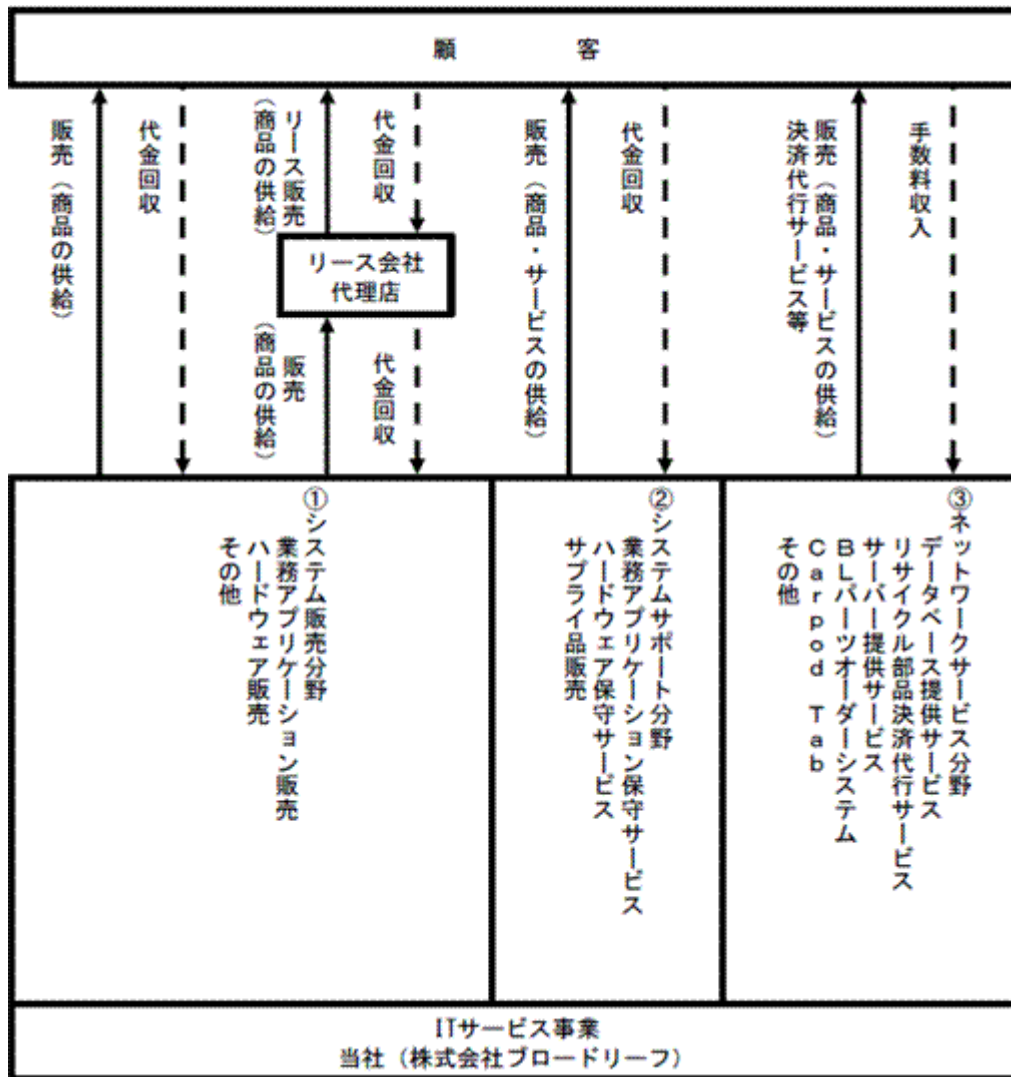
整備提案向上タブレットツール「Carpod Tab」の利用例



(Carpod Tabの画面)

[事業系統図]

当社の事業系統図は、次のとおりであります。



非連結子会社であるプラエセンス株式会社は、当社グループの研究開発活動の一部を担っております。また、同じく非連結子会社である博楽得信息科技(合肥)有限公司は、当社グループの中国におけるシステム販売を担っております。上記2社ともに、重要性が乏しいため、上記事業系統図に含めておりません。

4【関係会社の状況】

当社は、関係会社2社を有しておりますが、2社ともに非連結子会社であるため、該当事項はありません。

5【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成24年12月31日現在

| 従業員数(人) | 平均年齢(歳) | 平均勤続年数(年) | 平均年間給与(円) |
|---------|---------|-----------|-----------|
| 845 | 38.1 | 6.0 | 5,287,151 |

- (注) 1. 従業員数は就業人員(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者を含む。)であり、臨時雇用者数は、従業員数の10%未満であるため、記載を省略しております。
2. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3. 平均勤続年数は、平成22年1月1日に当社との合併により消滅した旧株式会社ブロードリーフにおける勤続年数を通算しております。
4. 当社は、ITサービス事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しております。

(2) 労働組合の状況

労働組合は組織されておませんが、労使関係は良好であります。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度における我が国経済は、東日本大震災からの復興関連需要やエコカー補助金等の政策効果などにより回復基調にありましたが、中国をはじめとする新興国の経済成長の鈍化や欧州の債務問題による不確実性の高まりなどにより、全体として弱い景気回復動向が続きました。

当社が属する情報通信業界におきましては、データ通信の高速化やスマートフォン及びタブレット端末の急速な普及、SNS関連サービス、クラウド、ビッグデータ対応などに関心が集まりました。当社の多くの顧客が属する自動車販売後のアフターサービスを提供する業界におきましては、自動車保有台数、車検、補修需要は底堅く推移しております。

このような事業環境の中、当社は、「産業プラットフォーム」上でのITサービスにより当社が考える産業構造の改革を推進すべく、当期においては顧客の事業創造を支援する新サービスの市場への浸透に努めました。具体的には、平成23年12月にサービス提供を開始した最終消費者に対してのサービス品質を高めるための業種間連携サービス「BLパーツオーダーシステム（ビーエルパーツオーダーシステム）」、平成24年7月に販売を開始した最終消費者に対して迅速でわかりやすい説明を補助するタブレットデバイス向けソリューション「Carpod Tab（カーポッドタブ）」の販売を強化しました。

また、アジア市場における自動車ビジネスを推進すべく、まず中国での自動車リサイクル市場への参入を目的として平成24年10月に中国の安徽省合肥市に博楽得信息科技有限公司（合肥）有限公司を子会社として設立しました。

売上分野別の状況につきましては、システム販売分野は整備業向けシステムが顧客のリース満了のタイミングの関係から前期より減少したことなどにより、売上高113億53百万円（前期比2.5%減）となりました。一方、ネットワークサービス分野は、リサイクル部品共有在庫ネットワークの手数料の増加やネットワーク型システム販売の増加により堅調に推移し、売上高30億8百万円（前期比24.7%増）となりました。

費用面につきましては、一部商品の開発コストが増加した影響で売上原価が増加しましたが、新サービスの改良等に関係リソースを集中したことから研究開発費が減少したことなどにより、販売費及び一般管理費は前期比微減となりました。

これらの結果、当事業年度の経営成績は、売上高156億41百万円（前期比2.1%増）、営業利益21億14百万円（前期比19.3%増）、経常利益20億35百万円（前期比27.3%増）、当期純利益8億15百万円（前期比76.7%減）となりました。

なお、マネジメント・パイアウト（MBO）の実施に伴い発生したのれん償却費を6億68百万円計上しており、これを控除した、のれん償却前営業利益は27億82百万円（前期比14.0%増）であり、のれん償却前当期純利益は14億84百万円（前期比64.4%減）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当事業年度末の現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動により得られた資金が32億37百万円、投資活動により使用した資金が7億60百万円、財務活動により使用した資金が17億96百万円となり、前事業年度末に比べ6億81百万円増加の36億4百万円となりました。

当事業年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、売上債権の増加などによる資金の減少があったものの、税引前当期純利益20億35百万円、減価償却費7億40百万円及びのれん償却額6億68百万円の計上などにより32億37百万円（前期比7.9%増）の資金の増加となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により使用した資金は、無形固定資産の取得による支出6億32百万円、関係会社出資金の払込による支出1億円などにより7億60百万円（前期比36.2%増）の資金の減少となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により使用した資金は、長期借入れによる収入45億円などがあったものの、長期借入金返済による支出62億50百万円などにより17億96百万円（前期比10.7%減）の資金の減少となりました。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当社は、単一セグメントのため、製品及びサービス分野ごとに記載しております。

| 区分 | 当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日) | 前年同期比(%) |
|-----------------|---------------------------------------|----------|
| システム販売 (千円) | 11,344,035 | 97.6 |
| システムサポート (千円) | 1,279,998 | 101.7 |
| ネットワークサービス (千円) | 3,008,720 | 124.7 |
| 合計(千円) | 15,632,754 | 102.2 |

- (注) 1. 金額は販売価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

当社は、主に業務アプリケーション製品の開発、販売及び保守の事業を行っており、個別受注に基づく製品の生産の割合が少ないため記載を省略しております。

(3) 販売実績

当社は、単一セグメントのため、製品及びサービス分野ごとに記載しております。

| 区分 | 当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日) | 前年同期比(%) |
|-----------------|---------------------------------------|----------|
| システム販売 (千円) | 11,353,277 | 97.5 |
| システムサポート (千円) | 1,279,998 | 101.7 |
| ネットワークサービス (千円) | 3,008,720 | 124.7 |
| 合計(千円) | 15,641,996 | 102.1 |

- (注) 1. 最近2事業年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、次のとおりであります。

| 相手先 | 前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日) | | 当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日) | |
|------------|---------------------------------------|-------|---------------------------------------|-------|
| | 金額(千円) | 割合(%) | 金額(千円) | 割合(%) |
| リコーリース株式会社 | 3,704,654 | 24.2 | 3,620,448 | 23.1 |
| 昭和リース株式会社 | 1,807,740 | 11.8 | 2,162,293 | 13.8 |

2. 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

当社は、中長期的に安定した企業の発展・成長により企業価値の最大化を図るために、顧客ニーズの変化やマーケットの変化に柔軟に対応したビジネスの推進に努め、「産業プラットフォーム」の拡大のためより一層の顧客満足度の維持・向上と高い付加価値サービスの創造に注力してまいります。

そのため、以下の項目を対処すべき重要課題として取り組んでまいります。

(1) 「産業プラットフォーム」の更なる拡大

平成21年のMB0以降、当社は自動車アフターマーケットに属する当社顧客の業務効率及び事業創造に繋がるITサービスを、「産業プラットフォーム」上で提供するための取り組みを進めてまいりました。この結果、ネットワークサービス分野の売上高は増加し、売上高全体に占める構成比は上昇しております。

システム販売分野では、既存顧客のリース満了による更新需要に伴う販売が多くを占めておりますが、今後、「産業プラットフォーム」の拡大のために、顧客の経営支援サービスを充実させ、各業種における競合他社から当社へのシステムの切り替えを進めることで「産業プラットフォーム」参加者の増大と利用頻度を高めることが課題となります。

この課題に対応すべく、当社業務アプリケーションの新規顧客への導入、サービスの提案力強化及び、ユーザー会（当社顧客向けの勉強会等）を通じた新サービスの理解の促進等を進めてまいります。

(2) 自動車アフターマーケット業界の発展を促すサービスの拡大

当社の主なサービス提供先の顧客が属する自動車アフターマーケットは、競争が激化しており、環境対応自動車等の新技術の発展など外部環境の大きな変化にさらされております。このような環境の中、当該業界が更なる発展をするためには、顧客に対する経営支援をより強化し、顧客がカーオーナーとの接点を増やし、カーオーナーに対するサービス品質を高めることを支援するサービスの拡大が課題であると捉えております。

この課題に対応すべく、当社は、顧客がカーオーナーとの接点を増やすためのプロモーション支援やユーザー会企画による情報提供・教育支援を行います。また、顧客サービス品質向上のためのBLパーツオーダーシステム、BL Communication, Carpod Tabといった当社ネットワークサービスを利用した顧客の事業創造を支援する情報を迅速に提供する「産業プラットフォーム」上でのITサービスの拡大に努め、業界発展のための取り組みを進めてまいります。

(3) 新技術の獲得・活用

「産業プラットフォーム」拡大のための付加価値サービスを創造していくためには、最終消費者のニーズを汲み取り、形に変える研究開発力の強化、新技術の獲得が重要な課題であると認識しております。付加価値サービスの提供にあたって「産業プラットフォーム」上で発生している取引情報（ビッグデータ）や当社が保有する車両情報、部品情報等のデータ（データベース）を分析することで得られる情報サービスの提供を始めておりますが、更なるサービスの拡充を図ることが課題となっております。

この課題に対応すべく、データを即時に並列で高速に処理するための技術における基礎研究の実施や新技術の実績の高い企業との提携の模索、高い技術をもった技術者の確保などを進めてまいります。

なお、顧客の利便性を高めるために当社アプリケーションのクラウド、スマートデバイスへの対応も進めてまいります。

(4) 他業界への「産業プラットフォーム」の拡大とM&A

「産業プラットフォーム」は、現在、自動車アフターマーケットにおいて展開しておりますが、商取引における効率的な受発注や、商取引等のデータ（ビッグデータ）を分析し、ITサービスを提供する仕組みは他業界にも展開できると考えております。このため、当社の更なる成長のためには、「産業プラットフォーム」を他業界へ拡大させていくことが課題であると認識しております。

この課題に対応すべく、当社は既に業種特化型業務アプリケーションを提供している自動車アフターマーケット以外の業界に対して、「産業プラットフォーム」の仕組みを導入することを検討していきます。また、当社戦略を実行するに際して有効と判断される企業や事業がある場合、M & Aを積極的に活用することも検討してまいります。

(5) 中国やASEAN諸国への進出

アジア市場での自動車販売台数は急成長しているため、自動車アフターマーケット市場はより一層の拡大が見込まれております。日本のマーケットで培った自動車アフターマーケットでのデータベース構築ノウハウと開発力で、アジア各国での自動車アフターマーケットにおける中古車から廃車に至るまでの循環型社会システムの構築に貢献することを目指しております。既に進出している中国をはじめとしたアジア市場での海外展開を進めていくにあたっては合併提携先パートナーとの関係強化、知的財産権侵害、為替リスク、社会インフラの未整備、提携先の確保などが課題となっております。

この課題に対応すべく海外進出における進出国のニーズの的確な把握とノウハウの蓄積、海外子会社の管理体制の構築などを進めてまいります。

4【事業等のリスク】

以下において、本書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち事業展開等に関しリスク要因となる可能性があると考えられる主な事項及び投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項を記載しております。なお、文中の将来に関する事項は本書提出日現在において当社が判断したものであり、不確実性を内在しているため、実際の結果と異なる可能性があります。また、事業等のリスクはこれらに限られるものではありません。

(1) 市場環境の変化と技術革新の対応について

当社は顧客や市場のニーズに対応した競争力のある製品・サービスの提供を目的として新技術の情報収集や研究開発にも力を入れ、中期的な製品開発方針を定め当社の成長を牽引する新製品の開発に取り組み、適切な時期に市場投入することに全力を挙げております。しかし、予想以上の急速な技術進展や代替技術・競合商品の出現、依存する技術標準・基盤の変化等により新製品開発を適切な時期に行えず市場投入が遅れる可能性、及び商品サイクル、市場動向の変化により十分な競争力を確保できない可能性もあり、継続的な製品開発力を維持できない場合もしくは市場ニーズの変化に際して対応が遅れた場合、新製品の開発投入に支障をきたし当社の業績が大きく変動する可能性があります。

(2) 特定の業種への依存と法規制について

当社は主に自動車アフターマーケット業界に対し業種特化型の業務アプリケーションを提供することを主要な事業としております。そのため、当社の業績は、かかる業界における景気の動向や設備投資の動向の影響を受ける場合があります。新たな有力市場や事業の創出、技術領域への取り組みなど事業の拡大に努めておりますが、自動車アフターマーケット業界における業績の低迷や設備投資の停滞が継続した場合、当社の業績は影響を受ける可能性があります。

また、車検制度等の自動車関連の法規制が改正された場合、当社顧客の業績に影響を与える恐れがあり、顧客がシステム投資を抑制する場合や、法規制の改正に対応するため当社のシステム開発コストが増大する場合には、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(3) ネットワーク障害及び製品の不具合について

ネットワーク障害について

当社は、製品開発及び営業活動におきまして、コンピュータシステム及びそのネットワークに多くを依存しており、一定の安全性を確保するように万全の体制をとるよう努めると共にコンピューター賠償責任保険への加入を行い、万一のための対策も講じております。しかしながら、地震、火災などの自然災害及びコンピュータウィルスの感染、サイバーテロなどに起因するシステムトラブル、また、公衆回線などネットワークインフラの障害により当社のシステムなどが正常に稼働しない状態が発生した場合には、当社に直接障害が生じる他、当社グループが提供するサービスの低下を招くなど重大な支障が生じることとなり、事業展開及び業績に重大な影響を及ぼす可能性があります。

製品の不具合について

当社の事業におけるシステム開発及び構築等においては顧客の検収後にシステムの不具合（いわゆる誤作動・バグ）等が発見される場合があります。当社は既に、ソフトウェア開発プロセスにおける能力成熟度を表すCMMI（注）を取得するなど開発プロセスをより成熟させるための取り組みを行ってまいりましたが、今後においてもシステムの開発段階から納品までの品質管理の徹底及びシステムテストによる検査に十分な対応を期すことで不具合等の発生防止に留意していく方針であります。しかしながら今後において当社の過失によって生じた不具合等により顧客に損害を与えた場合、または当社の製品が機能不足と認識された場合、損害賠償責任の発生や当社の信用の低下等により当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

（注）CMMI(Capability Maturity Model Integration)とは、米国カーネギーメロン大学ソフトウェア工学研究所(SEI)により提唱されたソフトウェアプロセスの成熟度モデルであり、ソフトウェアを開発、保守する組織の確立・改善度合いを、5つの成熟レベルで表したものであり、当社はレベル3を取得しております。

機密情報・個人情報の漏洩及び情報管理について

当社では、製品開発及び営業活動におきまして、機密情報やノウハウ及び顧客・個人情報を取り扱っております。そのため機密情報管理体制の整備、社員教育の徹底や情報漏洩防止ソフトウェア等の設備投資により、ネットワークを通じた機密情報への侵入、情報データの持ち出し等による機密情報の漏洩を防止するよう対策しております。しかし、外部からの当社コンピューターへの不正アクセス、当社役員及び従業員の過誤等による情報の漏洩のほか不測の事態により、これらの情報が外部に流出する可能性は皆無ではなく、このような事態が生じた場合、営業的損失や業務そのものの停止による損失にとどまらず、当社の社会的信用に重大な影響を与え、対応費用を含め当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 知的財産の保護及び侵害について

当社はシステム開発、データベース開発の業務を行っており、円滑な事業運営のために商標及び特許出願等、知的財産権等の防衛を図っております。しかしながら、一般的にシステム及びソフトウェア等に関する分野については、知的所有権の権利の範囲が必ずしも明確であるとはいえ、当社が知的所有権を取得している場合においても十分な権利の保護が得られない可能性があり、当社の知的財産権が侵害されることによって当社の事業活動に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社では第三者が保有する知的所有権侵害を防ぐため、専門家による調査を行っております。当社は、現時点において第三者より知的所有権に関する侵害訴訟等を提訴されたり、そのような通知を受けとっておりません。しかしながら、現在の特許制度のもとでは調査の限界もあり、厳密性を維持することが困難になってきています。また、当社が事業上用いる技術ノウハウ等について当社が認識しない第三者が既に知的所有権を取得している場合や当該第三者が今後において知的所有権を取得した場合には、当該第三者より使用差止及び損害賠償請求等の訴えを起こされる可能性や当該知的所有権の使用にかかるロイヤリティの支払い要求等が発生する可能性があり、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 人材の育成及び確保について

当社の事業展開においては高度な技術力に基づいたサービス提供を行い、顧客ニーズを満たすために、スキルの高い優秀な技術者及び販売スタッフを確保することが重要な要素であると考えております。そのため、当社は多角的な採用活動により優秀な人材の確保を行うと共に、スキルアップ支援など積極的な教育を行っております。

しかしながら、現在の情報通信産業では人材の流動性が高いことが特徴であり、また技術革新の速度が非常に速いことから、当社の求める専門性を有する人材の育成及び確保は困難を極めており、適切な人材を育成及び確保できない場合、あるいは在職する人材の社外流出が生じた場合には、当社の事業戦略や業績に影響を及ぼす可能性があります。

(6) 訴訟のリスクについて

当社は事業を遂行していく上で、各種関係法令を遵守し、また社員がコンプライアンスを理解し、実践することに最善の努力をしております。しかしながら、国内外を問わず訴訟を提起されるリスクを抱えております。万一、提訴された場合、または訴訟の結果によっては、当社の業績に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

| 契約締結先 | 契約内容 | 契約締結日 | 契約期間 |
|-----------------------|----------------------|------------|------------------------------|
| 社団法人日本自動車整備 振興会連合会 | 自動車整備標準作業点数表等の入 手 | 平成22年4月1日 | 平成22年4月1日から1年間 以後1年毎自動更新 |
| 日本アウダテックス株式 会社 | 自動車部品情報の入手 | 平成22年11月1日 | 平成22年11月1日から1年間 以後1年毎自動更新 |
| 日本アウダテックス株式 会社 | 自動車修理工数情報の入手 | 平成25年1月1日 | 平成25年1月1日から1年間 以後1年毎自動更新 |

6【研究開発活動】

(1) 研究開発活動の方針

当社の研究開発活動は、「産業プラットフォーム」拡大の戦略を実現するために、顧客の事業創造支援を行うサービスの提供や、顧客の取引の迅速化・販売機会の増加等に貢献する製品の研究開発を行うことを方針としております。

この方針の下、現在、当社は、顧客が日常業務をより効率的に行うことを可能とするため、広範にわたる顧客ニーズ(各業界における付加価値の高いデータベースの提供、顧客が取り扱う商品等の検索の効率化、業務の単純化、データ入力省力化、ペーパーレス化、情報提供の迅速化等)に応える製品の研究開発を中心に行っております。当事業年度における研究開発活動の総額は1億71百万円です。

当社の研究開発体制は次の通りです。

| 部署 | 開発拠点 | 業種 | 人員体制 |
|--------|--|--|------|
| 技術企画部 | 東京 | 次世代基盤 ・クラウド ・ビッグデータ、BI 製品国際化研究 | 7名 |
| 開発部 | 福岡第1開発課 福岡第2開発課 福岡第3開発課 福岡第4開発課 | 自動車系 ・整備・钣金・車販 ・ITS | 58名 |
| | 札幌第1開発課 札幌第2開発課 | 自動車系 ・部品商・リサイクル業 非自動車系 ・機械工具商 | 32名 |
| | 東京第1開発課 東京第2開発課 | 非自動車系 ・旅行業 ・携帯電話販売業 新商材 ・作業改善ツール ・情報漏洩対策 ・WEB会議 ・3D仮想空間システム | 32名 |
| 商品管理部 | ネットワークシステム課 | インフラ ・ネットワーク ・サーバー | 6名 |
| データ開発部 | 福岡 | 統計情報活用 | 31名 |

なお、当社は非連結子会社であるプラエセンス株式会社へ研究開発活動の一部を外注しております。

(2) 主要課題

研究開発活動の取り組みとして、常に情報技術の動向を把握し続けており、当社のソフトウェア・提供サービスへの展開について評価・研究を行っております。その結果を基に、顧客サービスの向上、運用コストの削減等、一定の評価が得られたものについて計画的に開発活動に反映を行っております。これは、「産業プラットフォーム」拡大の戦略において、最新の情報技術を用いた情報提供を可能とすることを目的としております。

現在の取り組みとして、タブレット端末（iPad等）、スマートフォン等のスマートデバイス、及びクラウド（注）技術に関する評価・研究を主軸としております。

（注）「クラウド」とは、一般的にインターネットをベースとしたコンピューターの利用形態であり、ユーザーはコンピューター処理をネットワーク経由で、サービスとして利用することとなります。

スマートデバイスについて

一般コンシューマにも展開が始まっているスマートデバイスに関しては、プロトタイプ作成など実用化に向けた研究を進めております。

本研究開発においては顧客と最終消費者とのやり取りに関しスマートデバイスを用いシステム利用シーンを拡大することで、さらなる商品価値の向上を目指すことが課題であります。

当プロトタイプは、展示会に出展し、顧客の評価を機能的に組み込むなどの改良を行っております。

また、既存技術からの発展だけでなく、デバイス特有のユーザーエクスペリエンス（UX）についても研究開発領域に加えております。

iOS、Android両方のプラットフォームに対応し、プラットフォームの進化や個別機器対応を減らすべく共通技術基盤として研究開発を進めており、今年度製品投入開始を目指しております。

クラウドへの取り組み

(a) 当社提供サービスのクラウドへの展開の検討

クラウド技術については、その高いスケラビリティとサーバーリソースの柔軟な運用が可能という点に着目しております。

しかしながら、技術革新の途上であるため、既存のシステムとは異なった運用システムの構築が必要となる問題、サーバーの設置場所が不明瞭となるカントリーリスク、及び通信の遅延によるリスクを考慮し、総合的な見地から評価を行う必要があります。このことから、評価指標の見極めなども研究範囲の中に含んでおります。当社提供サービスのクラウド展開においては、技術可能性だけでなく品質やコスト面、サービスの適用範囲といった観点からも研究しております。

(b) 当社サービスと、クラウド上のサービスとの連動による付加価値創造

当社の既存のネットワークサービスと、クラウド上に展開されている各サービスとの連携によって、新たな顧客価値創造を生み出せるかについて研究を行っております。この分野は、技術的な課題が多く、このため、顧客情報の相互認証、データの相互利用のための形式変換、セキュリティ技術など多岐にわたり幅広く研究を行っております。

クラウド技術に関しては、当事業年度において外部クラウドベンダーと連携を行った技術検証及びプロトタイプ製品の研究開発を行っており、その中でクラウドを用いることによる生産性の向上も合わせて評価を行ってまいります。当社製品・サービスとクラウドの連携により顧客へより魅力あるサービスを柔軟に提供出来るような相乗効果を目指しております。

ビッグデータ、ビジネスインテリジェンス(BI)への取り組み

当社アプリケーションのネットワーク化に伴い、当社顧客の情報や取引データなどあらゆる情報が当社データセンターに集まっております。日々蓄積されるこれらの商取引データを元に、顧客の経営者へ向けた経営判断の為の分析指標やマーケット指標、加盟団体向けの傾向分析など大規模データを分析し価値のある情報としての分析データを提供するサービスの実現を目指しております。

本研究開発においては大規模データを分析する上でのビッグデータ処理や、分析結果をより分かりやすく提供する為の可視化部分においてBIといった技術分野の研究開発を合わせて行う必要があります。この両面において基盤技術の研究開発及び先行企業との技術提携も含めた研究開発を行っており、増資資金を当研究開発へ充てることを計画しております。

国際化への取り組み

中国をはじめとするアジア圏の各国は、自動車保有台数が増加しており、これに伴い当社の関与する自動車アフターマーケットやリサイクル市場も拡大してきております。特に急成長しているのが中国市場であり、この流れは平成32年頃まで増加するとの予測（出典：「2020年中国乗用車マーケット展望」FOURIN）が出ております。

当社では、中国市場をはじめとするアジア圏の諸国に対して当社の保有するノウハウを生かしたサービスを展開するための研究開発を行っております。

(a) アプリケーションの国際対応

アプリケーションそのものの国際化への取り組みについては、画面に表示されるメッセージを各国の言語に合わせるだけでなく、画面の配置などの最適化や、画面の中で取り扱われる情報のすべてが多言語で行われる必要があります。当社ではアプリケーションの基盤部分を日本語に依存せず現地の仕様に切り替えが可能となるように国際対応への評価・研究を行っております。

この研究開発の成果として、現地化のスピード向上が図られることとなります。先行してPM.NS RCオプションの日本語以外の言語への対応（多言語化）を行っております。

(b) ビジネスモデルの現地化

業務アプリケーションとして現地展開を行うためには、現地の法規制、ビジネスモデル、商習慣をアプリケーションに反映する必要があります。当社では、まず中国での市場調査を行うとともに、車両情報の入手方法を調査し、情報の活用方法の研究を行っております。現在、部品流通支援システム(PM.NS RCオプション)については、ビジネス化できるかどうかを検証するため、プロトタイプモデルの製作に取り組んでおります。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社が判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社の財務諸表は、我が国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この財務諸表の作成に当たりまして、決算日における資産・負債及び事業年度の収益・費用の数値に影響を与える見積りは、主に資産の評価や引当金の計上であり、これらの見積り及び判断に対して、継続して評価を行っておりません。過去の実績や状況に応じて合理的と考えられる要因等に基づき、見積り及び判断を行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。

なお、キャッシュ・フローの状況については、「1 業績等の概要」に記載しております。

(2) 財政状態の分析

資産

当事業年度末における総資産は、前事業年度末に比べ8億96百万円減少し、226億19百万円（前期比3.8%減）となりました。これは主に、繰延税金資産11億55百万円の減少、のれん及びソフトウェアの償却が進んだ無形固定資産が6億46百万円減少した一方、現金及び預金が6億51百万円、売掛金が1億49百万円増加したことなどによるものです。

負債

当事業年度末における負債は、前事業年度末に比べ17億円減少し、76億円（前期比18.3%減）となりました。これは主に、返済により借入金が17億50百万円減少したことなどによるものです。

純資産

当事業年度末における純資産は、前事業年度末に比べ8億4百万円増加し、150億18百万円（前期比5.7%増）となりました。これは主に、当期純利益8億15百万円の計上に伴い利益剰余金が8億15百万円増加したことによるものです。

(3) 経営成績の分析

売上高

売上高につきましては、システム販売分野が整備業向けシステムが顧客のリース満了のタイミングの関係から前事業年度より減少したことなどにより、売上高113億53百万円（前期比2.5%減）となりました。システムサポート分野につきましては、専用帳票等のサプライ品販売は減少したものの、保守サービスの増加により売上高12億79百万円（前期比1.7%増）となりました。また、ネットワークサービス分野は、リサイクル部品共有在庫ネットワークの手数料の増加やネットワーク型システム販売の増加により堅調に推移し、売上高30億8百万円（前期比24.7%増）となりました。

以上の結果、売上高は156億41百万円（前期比2.1%増）となりました。

営業費用及び営業利益

売上原価につきましては、一部商品の障害対応などにより、46億16百万円（前期比1.7%増）となりました。また、販売費及び一般管理費は、研究開発費等の減少により89億11百万円（前期比1.0%減）となりました。これらの結果、営業利益は21億14百万円（前期比19.3%増）となりました。

営業外損益及び経常利益

営業外損益につきましては、営業外収益25百万円（前期比1.2%増）、営業外費用1億3百万円（前期比47.8%減）となりました。営業外費用が減少した主な要因は、借入金の借換手数料25百万円が発生したものの、借入金の減少及び利率の低下により支払利息が減少したことによるものです。これらの結果、経常利益は20億35百万円（前期比27.3%増）となりました。

法人税等及び当期純利益

法人税、住民税及び事業税と法人税等調整額を合わせた法人税等合計は、前事業年度と比較して35億58百万円増加し、12億20百万円となりました。これは主に前事業年度において繰延税金資産の回収可能性の見直しにより法人税等調整額が23億92百万円計上されたこと及び当事業年度において法人税法上の繰越欠損金の取崩しによる繰延税金資産の減少などにより、法人税等調整額が11億65百万円計上されたことによるものです。この結果、当期純利益は8億15百万円（前期比76.7%減）となりました。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社の経営成績は、外部要因としては 自動車アフターマーケット市場の環境変化 法的規制 訴訟等により影響を受ける可能性があります。

一方、当社の経営成績に影響を与える内部要因としては、システムトラブル 製品不具合 情報管理 知的財産の保護 人材の育成及び確保等が挙げられます。この点、当社は、継続的に内部管理体制の改善、組織体制を整備することでこれらのリスク要因に対応するよう努めてまいります。

経営成績に重要な影響を与える要因についての詳細につきましては、「4 事業等のリスク」を参照願います。

(5) 戦略的現状と見通し

当社は約30年近くにわたり、自動車アフターマーケット市場を中心として業務効率化につながるアプリケーションを提供し市場を創造してまいりました。しかしながら、近年においてはIT環境の進展もあり業務効率化のためだけのアプリケーションの商品としての魅力は低下傾向にあり、当社もシステム販売分野の環境については厳しい状況が続いております。

このような環境の中、当社は「感謝と喜び」の経営理念をもとに顧客の事業創造に貢献すべく、過去に培ってきた顧客資産、マーケットポジションと進化したIT環境（特にネットワーク、スマートデバイス）をもとに「産業プラットフォーム」の拡大を中期経営計画にて打ち出しており、当社が考える産業構造の発展を目指しております。

具体的には、まず自動車アフターマーケットの業界において業種間で行う商取引をネットワーク化することで、更なる生産性の向上と事業機会の創造のためのITサービスを提供しております。平成12年より提供しているリサイクル部品共有在庫ネットワークに加え、当事業年度は2つの業種間取引効率化のためのサービスの提供を開始し、またスマートデバイスの進展に合せたタブレット端末（iPad等）による顧客の営業支援サービスも開始しており、業務効率化のみならず当社に蓄積された情報を顧客に提供することで事業機会の創造をするためのサービスを開始しております。

今後は、2つの業種間連携サービスの利便性を強化し、当社ネットワークを通じたサービス受益者を増加させることにより当社に多くの情報を蓄積・分析し、価値ある情報として提供を行っていくとともにタブレット端末（iPad等）のサービスラインナップを充実させて顧客の事業機会の創造に努めてまいります。

また、自動車アフターマーケット以外の業界にも「産業プラットフォーム」の構築を実現すべく企画検討を開始します。

これに加え、海外での事業展開を進めており、まずは中国においてパートナー企業とともに自動車アフターマーケット事業者へのサービス提供を目指してまいります。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

運転資金及び設備投資資金につきましては、内部留保または金融機関からの借入により資金調達することとしております。金融機関からの資金調達につきましては、長期借入のほか、効率的な運転資金の調達を図るため、総額10億円のコミットメントラインを設定しております。

資金状況につきましては、営業活動によるキャッシュ・フローでは、前事業年度より2億38百万円多い132億37百万円の資金獲得となりました。これは主に、売上高の増加、販売費及び一般管理費、支払利息及び特別損失の減少などにより、税引前当期純利益が前事業年度に比べ8億70百万円増加したことによるものです。営業活動により得たキャッシュのうち17億50百万円は、財務体質の健全化のため、金融機関からの長期借入金の期限前弁済に充てられました。

これらの結果、当事業年度末の現金及び現金同等物の残高は、前事業年度末より6億81百万円増加し、36億4百万円となりました。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

近年、自動車業界においては、リーマンショックや東日本大震災、タイにおける洪水、政府によるエコカー支援など事業環境が大きく変化しております。しかしながら、当社の主な顧客が属する自動車アフターマーケット業界は、車検や車体補修に対する需要に影響を受けるため、自動車販売台数の増減による影響を大きく受けずに、比較的安定して推移しております。しかし、中長期の見通しとしては、少子高齢化、若者の車離れなどを原因として、国内では当社の顧客ターゲット数は減少していく可能性があります。

このような事業環境の中で当社は、過去20年以上にわたって築いてきた「産業プラットフォーム」において、ネットワークを介して顧客間の事業を連携させ、ネットワークサービス分野の伸張を図っております。今後は、新技術の利用に加え、「産業プラットフォーム」を拡大することで、顧客の事業創造に努めてまいります。また、営業と開発が一体となってサービスの開発を推進することで自動車アフターマーケットにおける「産業プラットフォーム」のさらなる進化を図ると共に海外展開も強化してまいります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当事業年度において実施した設備投資の総額は763,779千円であります。その主なものは、PM.NS RCオプション（自動車部品流通支援ネットワークシステム）、SF.NS（自動車整備ネットワークシステム）及びPM.NS（自動車部品流通支援ネットワークシステム）などの市場販売目的のソフトウェア開発及び商用システムの導入などの自社利用目的のソフトウェア628,440千円であります。なお、当事業年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社における主要な設備は、以下のとおりであります。

平成24年12月31日現在

| 事業所名 (所在地) | 設備の内容 | 帳簿価額 | | | | | 合計 (千円) | 従業員数 (人) |
|--------------------------------|-----------------|------------|-----------------------|-----------------------------------|---------------|-------------|------------|-------------|
| | | 建物 (千円) | 工具、器具 及び備品 (千円) | 土地 (千円) (面積 ² m) | リース資産 (千円) | その他 (千円) | | |
| 東京本社・東京開発事業所・東京事業所 (東京都品川区) | 管理・営業・開発施設 | 85,785 | 30,888 | - | 13,078 | 2,773 | 132,527 | 318 |
| 札幌開発事業所 (北海道札幌市東区) | 開発施設 | 50,193 | 643 | 52,060 (466.75) | - | - | 102,897 | 33 |
| 福岡開発事業所 (福岡県福岡市博多区) | 開発施設 | 13,247 | 10,029 | - | 4,936 | - | 28,213 | 89 |
| 34営業所他 | 営業施設 データセンター | 72,808 | 73,898 | 40,918 (625.46) | 69,016 | 646 | 257,287 | 405 |

(注) 1. 現在休止中の主要な設備はありません。

2. 帳簿価額のうち「その他」は、構築物、車両運搬具であり、建設仮勘定を含んでおりません。

なお、金額には消費税等を含めておりません。

3. 上記のほか、主要な賃借として、以下のものがあります。

| 事業所名 (所在地) | 設備の内容 | 従業員数 (人) | 面積 (² m) | 年間賃借料 (千円) |
|--------------------------------|------------|-------------|-------------------------|---------------|
| 東京本社・東京開発事業所・東京事業所 (東京都品川区) | 管理・営業・開発施設 | 318 | 4,791.91 | 215,192 |
| 福岡開発事業所 (福岡県福岡市博多区) | 開発施設 | 89 | 1,389.99 | 51,540 |

3【設備の新設、除却等の計画】

当社の設備投資については、景気予測、業界動向、投資効率などを総合的に勘案して策定しております。

(1) 重要な設備の新設

平成24年12月31日現在

| 会社名 事業所名 | 所在地 | 設備の内容 | | 投資予定金額 | | 資金調達 方法 | 着手及び完了予 定年月 | | 完成後の 増加能力 |
|--------------------|------------|-------------|------|------------|--------------|--------------|----------------|--------------|--------------|
| | | | | 総額 (千円) | 既支払額 (千円) | | 着手 | 完了 | |
| (株)ブロードリーフ 本社 他 | 東京都 品川区 | ソフト ウェア | 市場販売 | 1,039,092 | - | 自己資金 増資資金 | 平成25年 1月 | 平成25年 12月 | |
| (株)ブロードリーフ 本社 他 | 東京都 品川区 | ソフト ウェア | 自社利用 | 120,914 | - | 自己資金 | 平成25年 1月 | 平成25年 12月 | |
| (株)ブロードリーフ 本社 他 | 東京都 品川区 | サーバー 機器等 | 情報機器 | 143,052 | - | 自己資金 増資資金 | 平成25年 6月 | 平成25年 12月 | |

(注) 完成後の増加能力につきましては、その測定が困難なため、記載を省略しております。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

| 種類 | 発行可能株式総数(株) |
|------|-------------|
| 普通株式 | 80,000,000 |
| 計 | 80,000,000 |

【発行済株式】

| 種類 | 事業年度末現在発行数 (株) (平成24年12月31日) | 提出日現在発行数(株) (平成25年3月29日) | 上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名 | 内容 |
|------|------------------------------------|-----------------------------|------------------------------------|--|
| 普通株式 | 22,462,700 | 24,762,700 | 東京証券取引所 (市場第一部) | 完全議決権株式であり、権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式で、単元株式数は100株であります。 |
| 計 | 22,462,700 | 24,762,700 | - | - |

(注) 当社株式は平成25年3月22日付で、東京証券取引所市場第一部に上場いたしました。

(2)【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は、以下の通りです。

(平成22年3月24日定時株主総会決議)

| | 事業年度末現在 (平成24年12月31日) | 提出日の前月末現在 (平成25年2月28日) |
|--|---|---------------------------|
| 新株予約権の数(個) | 13,820 | 13,820 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数(個) | - | - |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 | 同左 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(株) | 1,382,000(注)1、5 | 1,382,000(注)1、5 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円) | 500(注)2、5 | 同左 |
| 新株予約権の行使期間 | 自平成22年4月10日 至平成32年3月24日 | 同左 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) | 発行価格 500 資本組入額 250 (注)5 | 同左 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注)3 | 同左 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の決議による承認を要するものとする。 | 同左 |
| 代用払込みに関する事項 | - | - |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | (注)4 | 同左 |

(注)1. 本新株予約権の割当日以降、(注)2に記載の行使価額の調整を行う場合には、付与株式数は、次の算式により調整されるものとします。

$$\text{調整後付与株式数} = \frac{\text{調整前付与株式数} \times \text{調整前行使価額}}{\text{調整後行使価額}}$$

2. 本新株予約権の割当後、時価を下回る払込金額をもって当社普通株式を新たに発行又は当社の保有する当社普通株式を処分する場合及び、株式分割により普通株式を発行する場合等、当社と新株予約権者との間で締結された新株予約権割当契約に定める事由により、発行済当社普通株式数に変更を生じる場合又は変更を生じる可能性がある場合は、次に定める式（以下、行使価額調整式という。）をもって行使価額を調整し、調整により生じる1円未満小数第2位を切り捨てます。

但し、株式分割を行った場合に行使価額調整式で使用する1株あたりの払込金額は、0円とします。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株あたり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

3 新株予約権の行使条件

(1) ベスティング

新株予約権者は、以下に定める時期において、以下に定める数の新株予約権（以下、「ベスティング済新株予約権」という。）に限りその全部又は一部を行使することができ、保有する新株予約権のうちベスティング済本新株予約権でないものを行使することはできないものとする。

| 時期 | ベスティング済新株予約権の個数 |
|--------------|-----------------|
| 平成23年4月10日以降 | 割当数の20% |
| 平成24年4月10日以降 | 割当数の40% |
| 平成25年4月10日以降 | 割当数の60% |
| 平成26年4月10日以降 | 割当数の80% |
| 平成27年4月10日以降 | 割当数の100% |

ただし、上記の期間に関わらず、新株予約権13,820個のうち、11,000個については、当社の上場が金融商品取引所等により決定されること、その他新株予約権者と締結する「第1回新株予約権割当契約書」に定める一定の条件を満たすことにより、一部または全部の新株予約権についてベスティング済本新株予約権となる。

また、新株予約権13,820個のうち、2,820個については、当社の上場が金融商品取引所等により決定されること、その他新株予約権者と締結する「第1回新株予約権割当契約書」に定める一定の条件を満たすことにより、全てベスティング済本新株予約権となる。

(2) 各新株予約権の一部行使はできないものとする。

- 4 合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、又は株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）を行う場合において、組織再編行為の効力発生日の直前において残存する新株予約権を有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社の新株予約権をそれぞれ交付することとします。
- 5 平成24年8月10日開催の取締役会決議により、平成24年9月18日付で1株を100株とする株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

(平成23年3月2日臨時株主総会決議)

| | 事業年度末現在 (平成24年12月31日) | 提出日の前月末現在 (平成25年2月28日) |
|--|---|---------------------------|
| 新株予約権の数(個) | 1,000 | 1,000 |
| 新株予約権のうち自己新株予約権の数(個) | - | - |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | 普通株式 | 同左 |
| 新株予約権の目的となる株式の数(株) | 100,000(注)1、5 | 100,000(注)1、5 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円) | 500(注)2、5 | 同左 |
| 新株予約権の行使期間 | 自平成23年3月11日 至平成33年3月2日 | 同左 |
| 新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円) | 発行価格 500 資本組入額 250 (注)5 | 同左 |
| 新株予約権の行使の条件 | (注)3 | 同左 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 譲渡による新株予約権の取得については、取締役会の決議による承認を要するものとする。 | 同左 |
| 代用払込みに関する事項 | - | - |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | (注)4 | 同左 |

(注)1. 本新株予約権の割当日以降、(注)2に記載の行使価額の調整を行う場合には、付与株式数は、次の算式により調整されるものとします。

$$\text{調整後付与株式数} = \frac{\text{調整前付与株式数} \times \text{調整前行使価額}}{\text{調整後行使価額}}$$

2. 本新株予約権の割当後、時価を下回る払込金額をもって当社普通株式を新たに発行又は当社の保有する当社普通株式を処分する場合及び、株式分割により普通株式を発行する場合等、当社と新株予約権者との間で締結された新株予約権割当契約に定める事由により、発行済当社普通株式数に変更を生じる場合又は変更を生じる可能性がある場合は、次に定める式(以下、行使価額調整式という。)をもって行使価額を調整し、調整により生じる1円未満小数第2位を切り捨てます。

但し、株式分割を行った場合に行使価額調整式で使用する1株あたりの払込金額は、0円とします。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株あたり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

3 新株予約権の行使条件

(1) ベスティング

新株予約権者は、以下に定める時期において、以下に定める数の新株予約権（以下、「ベスティング済新株予約権」という。）に限りその全部又は一部を行使することができ、保有する新株予約権のうちベスティング済本新株予約権でないものを行使することはできないものとする。

| 時期 | ベスティング済新株予約権の個数 |
|-------------|-----------------|
| 平成24年3月3日以降 | 割当数の20% |
| 平成25年3月3日以降 | 割当数の40% |
| 平成26年3月3日以降 | 割当数の60% |
| 平成27年3月3日以降 | 割当数の80% |
| 平成28年3月3日以降 | 割当数の100% |

ただし、上記の期間に関わらず、当社の上場が金融商品取引所等により決定されること、その他新株予約権者と締結する「第1回新株予約権割当契約書」に定める一定の条件を満たすことにより、全てベスティング済本新株予約権となる。

(2) 各新株予約権の一部行使はできないものとする。

4 合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割もしくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、又は株式交換もしくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）を行う場合において、組織再編行為の効力発生日の直前において残存する新株予約権を有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社の新株予約権をそれぞれ交付することとします。

5 平成24年8月10日開催の取締役会決議により、平成24年9月18日付で1株を100株とする株式分割を行っております。これにより「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」及び「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額」が調整されております。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

| 年月日 | 発行済株式総 数増減数(株) | 発行済株式総 数残高(株) | 資本金増減額 (千円) | 資本金残高 (千円) | 資本準備金増 減額(千円) | 資本準備金残 高(千円) |
|--------------------|-------------------|------------------|----------------|---------------|------------------|-----------------|
| 平成21年9月16日 (注)1 | 2 | 2 | 50 | 50 | 50 | 50 |
| 平成21年11月6日 (注)2 | 222,120 | 222,122 | 5,553,000 | 5,553,050 | 5,553,000 | 5,553,050 |
| 平成22年4月9日 (注)3 | 2,445 | 224,567 | 61,125 | 5,614,175 | 61,125 | 5,614,175 |
| 平成23年3月10日 (注)4 | 60 | 224,627 | 1,500 | 5,615,675 | 1,500 | 5,615,675 |
| 平成24年9月18日 (注)5 | 22,238,073 | 22,462,700 | - | 5,615,675 | - | 5,615,675 |

(注)1.会社設立によるものであります。

2.有償第三者割当

割当先 カーライル・ジャパン・インターナショナル・パートナーズ・ツー・エルピー
カーライル・ジャパン・パートナーズ・ツー・エルピー
シージェイピー・コ・インベストメント・ツー・ビー・エルピー
シージェイピー・コ・インベストメント・ツー・イー・エルピー

発行株式数 222,120株

発行価格 50,000円

資本組入額 25,000円

3.有償第三者割当

割当先 ブロードリーフ社員持株会
当社取締役、監査役及び従業員

発行株式数 2,445株

発行価格 50,000円

資本組入額 25,000円

4.有償第三者割当

割当先 当社従業員

発行株式数 60株

発行価格 50,000円

資本組入額 25,000円

5.株式分割(1:100)によるものであります。

6.決算日後、平成25年3月21日を払込期日とする有償一般募集増資による新株式2,300,000株(発行価格1,080円、引受価額1,015.20円、資本組入額507.60円)発行により、資本金及び資本準備金はそれぞれ1,167,480千円増加しております。

(6) 【所有者別状況】

平成24年12月31日現在

| 区分 | 株式の状況(1単元の株式数100株) | | | | | | | 単元未満株式の状況(株) | |
|-------------|--------------------|------|----------|--------|---------|----|-------|--------------|---|
| | 政府及び地方公共団体 | 金融機関 | 金融商品取引業者 | その他の法人 | 外国法人等 | | 個人その他 | | 計 |
| | | | | | 個人以外 | 個人 | | | |
| 株主数(人) | - | - | - | 4 | 4 | - | 24 | 32 | - |
| 所有株式数(単元) | - | - | - | 29,192 | 192,930 | - | 2,505 | 224,627 | - |
| 所有株式数の割合(%) | - | - | - | 13.00 | 85.89 | - | 1.11 | 100.00 | - |

(7) 【大株主の状況】

平成24年12月31日現在

| 氏名又は名称 | 住所 | 所有株式数(株) | 発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%) |
|--|--|------------|------------------------|
| Carlyle Japan International Partners , L . P . | Walkers Corporate Services Limited , Walker House , 87 Mary Street , George Town , Grand Cayman KY 1 - 9005 , Cayman Islands | 9,407,100 | 41.88 |
| Carlyle Japan Partners , L . P . | Walkers Corporate Services Limited , Walker House , 87 Mary Street , George Town , Grand Cayman KY 1 - 9005 , Cayman Islands | 9,083,400 | 40.44 |
| 株式会社オートボックスセブン | 東京都江東区豊洲5丁目6-52 | 2,394,500 | 10.66 |
| CJP Co - Investment B , L . P . | Walkers Corporate Services Limited , Walker House , 87 Mary Street , George Town , Grand Cayman KY 1 - 9005 , Cayman Islands | 585,800 | 2.61 |
| リコーリース株式会社 | 東京都江東区東雲1丁目7-12 | 224,700 | 1.00 |
| CJP Co - Investment A , L . P . | Walkers Corporate Services Limited , Walker House , 87 Mary Street , George Town , Grand Cayman KY 1 - 9005 , Cayman Islands | 216,700 | 0.96 |
| サイノコム・ジャパン株式会社 | 東京都中央区新川1丁目16-14 | 200,000 | 0.89 |
| ブロードリーフ社員持株会 | 東京都品川区東品川4丁目13-14 | 115,600 | 0.51 |
| 昭和リース株式会社 | 東京都文京区後楽1丁目4-14 | 100,000 | 0.45 |
| 大山 堅司 | 東京都目黒区 | 30,000 | 0.13 |
| 計 | - | 22,357,800 | 99.53 |

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

| 区分 | 株式数(株) | 議決権の数(個) | 内容 |
|----------------|-----------------|----------|---------------------------------|
| 無議決権株式 | - | - | - |
| 議決権制限株式(自己株式等) | - | - | - |
| 議決権制限株式(その他) | - | - | - |
| 完全議決権株式(自己株式等) | - | - | - |
| 完全議決権株式(その他) | 普通株式 22,462,700 | 224,627 | 権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。 |
| 単元未満株式 | - | - | - |
| 発行済株式総数 | 22,462,700 | - | - |
| 総株主の議決権 | - | 224,627 | - |

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

| 所有者の氏名 又は名称 | 所有者の住所 | 自己名義 所有株式数(株) | 他人名義 所有株式数(株) | 所有株式数の 合計(株) | 発行済株式数に対す る所有株式数の割合 (%) |
|----------------|--------|------------------|------------------|-----------------|-------------------------------|
| - | - | - | - | - | - |
| 計 | - | - | - | - | - |

(9) 【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストックオプション制度を採用しております。
当該制度は、会社法に基づき新株予約権を発行する方法によるものであります。
当該制度の内容は、以下のとおりであります。

(平成22年3月24日定時株主総会決議)

会社法に基づき、平成22年3月24日第2回定時株主総会終結の時に在任する当社取締役及び同日現在在籍する当社使用人に対して特に有利な条件をもって新株予約権を発行することを、平成22年3月24日の定時株主総会において特別決議されたものであります。

| | |
|--------------------------|------------------------|
| 決議年月日 | 平成22年3月24日 |
| 付与対象者の区分及び人数(名) | 当社取締役 2 当社従業員 43 |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | (2)新株予約権等の状況に記載しております。 |
| 株式の数(株) | 同上 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円) | 同上 |
| 新株予約権の行使期間 | 同上 |
| 新株予約権の行使の条件 | 同上 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 同上 |
| 代用払込みに関する事項 | 同上 |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | 同上 |

(注) 本書提出日現在、付与対象者の区分及び人数は、当社取締役2名、当社従業員42名であります。

(平成23年3月2日臨時株主総会決議)

会社法に基づき、平成23年3月2日臨時株主総会終結の時に在籍する当社使用人に対して特に有利な条件をもって新株予約権を発行することを、平成23年3月2日の臨時株主総会において特別決議されたものであります。

| | |
|--------------------------|------------------------|
| 決議年月日 | 平成23年3月2日 |
| 付与対象者の区分及び人数(名) | 当社従業員 1 |
| 新株予約権の目的となる株式の種類 | (2)新株予約権等の状況に記載しております。 |
| 株式の数(株) | 同上 |
| 新株予約権の行使時の払込金額(円) | 同上 |
| 新株予約権の行使期間 | 同上 |
| 新株予約権の行使の条件 | 同上 |
| 新株予約権の譲渡に関する事項 | 同上 |
| 代用払込みに関する事項 | 同上 |
| 組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項 | 同上 |

(注) 本書提出日現在、付与対象者の区分及び人数は、当社取締役1名であります。

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得

(1)【株主総会決議による取得の状況】

| 区分 | 株式数(株) | 価額の総額(円) |
|--|--------|-----------|
| 株主総会(平成24年9月18日)での決議状況 (取得期間 平成24年9月19日~平成24年9月30日) | 5,000 | 4,500,000 |
| 当事業年度前における取得自己株式 | - | - |
| 当事業年度における取得自己株式 | 4,700 | 4,230,000 |
| 残存授権株式の総数及び価額の総額 | - | - |
| 当事業年度の末日現在の未行使割合(%) | - | - |
| 当期間における取得自己株式 | - | - |
| 提出日現在の未行使割合(%) | - | - |

(注)平成24年9月18日付で、当社普通株式1株につき100株の割合をもって株式の分割を行っております。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

| 区分 | 当事業年度 | | 当期間 | |
|---------------------------------|--------|------------|--------|------------|
| | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) | 株式数(株) | 処分価額の総額(円) |
| 引き受ける者の募集を行った 取得自己株式 | - | - | - | - |
| 消却の処分を行った取得自己 株式 | - | - | - | - |
| 合併、株式交換、会社分割に係 る移転を行った取得自己株式 | - | - | - | - |
| その他(従業員への譲渡によ る売渡) | 4,700 | 4,230,000 | - | - |
| 保有自己株式数 | - | - | - | - |

(注)平成24年9月18日付で、当社普通株式1株につき100株の割合をもって株式の分割を行っております。

3【配当政策】

当社は、安定した財務体質に裏付けられた経営基盤の強化を図るため、内部留保に重点を置く所存であり、内部留保資金につきましては、中長期的視点に立ったM&A、設備投資、研究開発投資など、経営基盤の強化並びに海外事業展開や環境対策など今後の事業展開に備え、これまで無配としておりました。

しかしながら、今後は当社では株主に対する利益還元を経営上の重要課題の一つとして位置づけ、安定した収益基盤を構築することによる安定配当の維持を基本としながら、期間業績及び財務状況並びに今後の事業展開などの状況を総合的に勘案し、適切な方策を採用し、積極的に株主への利益還元に取り組む方針であります。配当性向は、概ね20%を目処としております。

当社の剰余金の配当は、期末配当の1回を基本的な方針としております。なお、株主に対する利益還元を柔軟に行うため、中間配当について、取締役会決議により、毎年6月30日現在の最終の株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者に中間配当することができる旨を定款に定めております。これら配当の決定機関は、中間配当は取締役会であり、期末配当は定款に取締役会決議による剰余金の配当を可能とする規定を設けていますが、株主の意向を直接伺う機会を確保するため、株主総会としています。

4【株価の推移】

当社株式は非上場でありましたので、該当事項はありません。

なお、当社株式は平成25年3月22日付で、東京証券取引所市場第一部に上場いたしました。

5【役員の状況】

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (株) |
|------------------|---------------|-------|--------------|--|------|--------------|
| 取締役社長 (代表取締役) | | 大山 堅司 | 昭和43年9月10日生 | 昭和62年4月 株式会社ビーイング入社 平成元年4月 同社取締役 平成12年7月 同社取締役副社長 平成14年7月 同社執行役員マーケティング部長兼営業部長 平成17年10月 アイ・ティー・エックス株式会社顧問 平成18年1月 当社取締役副社長 平成18年6月 当社代表取締役社長(現任) | (注)3 | 30,000 |
| 取締役 | 執行役員 事業本部長 | 小島 明 | 昭和38年4月19日生 | 昭和62年4月 大和工商リース株式会社入社 平成13年10月 株式会社ビーイング入社 平成18年8月 当社入社 マーケティンググループ長 平成20年3月 当社取締役(現任)執行役員兼マーケティンググループ長 平成21年1月 当社執行役員営業本部長 平成23年1月 当社執行役員事業本部長(現任) | (注)3 | 10,000 |
| 取締役 | 執行役員 管理本部長 | 山中 健一 | 昭和43年10月10日生 | 平成4年4月 三菱電機エンジニアリング株式会社入社 平成8年1月 株式会社ビーイング入社 平成12年4月 同社執行役員 平成17年5月 同社経営推進室副室長 平成17年11月 株式会社JIMOS執行役員 平成22年10月 当社執行役員管理本部長(現任) 平成23年1月 当社経営管理グループ長兼務 平成24年3月 当社取締役(現任) | (注)3 | 6,000 |
| 取締役 | | 川原 浩 | 昭和41年7月7日生 | 平成2年4月 株式会社日本長期信用銀行入行(現株式会社新生銀行) 平成11年3月 チェースマンハッタン銀行(現JPモルガン証券)入行 平成13年9月 ゼネラル・エレクトリック・インターナショナル・インク入社 平成16年8月 日本ゼネラル・エレクトリック株式会社入社 平成18年2月 カーライル・ジャパン・エルエルシー入社 ヴァイス・プレジデント 平成18年6月 クオリカプス株式会社取締役 平成19年1月 カーライル・ジャパン・エルエルシー ディレクター 平成20年6月 アヴァンストレート株式会社取締役(現任) 平成21年11月 当社取締役(現任) 平成23年1月 カーライル・ジャパン・エルエルシー マネージング・ディレクター(現任) | (注)3 | - |

| 役名 | 職名 | 氏名 | 生年月日 | 略歴 | 任期 | 所有株式数 (株) |
|-------|----|--------|--------------|---|------|--------------|
| 取締役 | | 鬼澤 盛夫 | 昭和19年4月8日生 | 昭和45年4月 日本ユニバック株式会社(現日本ユニシス株式会社)入社 昭和60年3月 シチズン時計株式会社入社 平成4年2月 メンター・グラフィックス・ジャパン株式会社代表取締役社長 平成11年2月 コネクサント・システムズ・ジャパン株式会社代表取締役社長 平成18年2月 オートデスク株式会社代表取締役社長 平成24年3月 同社アドバイザー 当社取締役(現任) | (注)3 | - |
| 常勤監査役 | | 青木 伸也 | 昭和21年12月16日生 | 昭和40年4月 岩井産業株式会社(現双日株式会社)入社 平成12年4月 日商岩井マネジメントサービス株式会社(現双日シェアードサービス株式会社)代表取締役副社長 平成15年6月 有限会社ブレーンズオプトラスト代表取締役(現任) 平成16年7月 株式会社ニュース・サービス・センター執行役員総務局長 平成19年1月 当社入社 平成19年3月 当社常勤監査役(現任) | (注)4 | 2,000 |
| 常勤監査役 | | 加來 英彦 | 昭和26年12月15日生 | 昭和49年4月 日商岩井株式会社(現双日株式会社)入社 平成14年4月 日商岩井米国法人(現双日米国法人)シニアバイスプレジデント 平成16年7月 双日商業開発株式会社入社 同社取締役 平成19年6月 同社専務取締役 平成22年4月 双日リアルネット株式会社常務取締役 平成24年6月 同社顧問 平成24年9月 当社常勤監査役(現任) | (注)4 | - |
| 監査役 | | 久保田 幸雄 | 昭和24年10月7日生 | 昭和49年4月 ソニー株式会社入社 平成9年6月 同社執行役員常務 平成13年9月 J-フォン株式会社社外取締役 平成15年4月 ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ株式会社代表取締役社長 平成21年8月 株式会社ウィルコム代表取締役社長CEO 平成22年4月 カーライル・ジャパン・エルエルシー シニアアドバイザー(現任) 平成23年1月 当社非常勤監査役(現任) | (注)4 | - |
| 計 | | | | | | 48,000 |

- (注) 1. 取締役川原浩及び鬼澤盛夫は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役加來英彦及び久保田幸雄は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 平成24年9月18日開催の臨時株主総会の終結の時から平成24年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
4. 平成24年9月18日開催の臨時株主総会の終結の時から平成27年12月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスの取組みに関する基本方針

近年、世界レベルでの企業間の合従連衡、戦略的提携、M&Aが行われる等、企業は変化の激しい外部環境にさらされております。また、会計基準はじめ国際的なルールの統一が進む中、企業経営においてもこれまでの日本型統治システムが現代の環境に適合しなくなっており、日本においても、規制緩和、会社法及び金融商品取引法の改定、株主重視のコーポレート・ガバナンスなど、近年その在り様が大きく変化してきております。

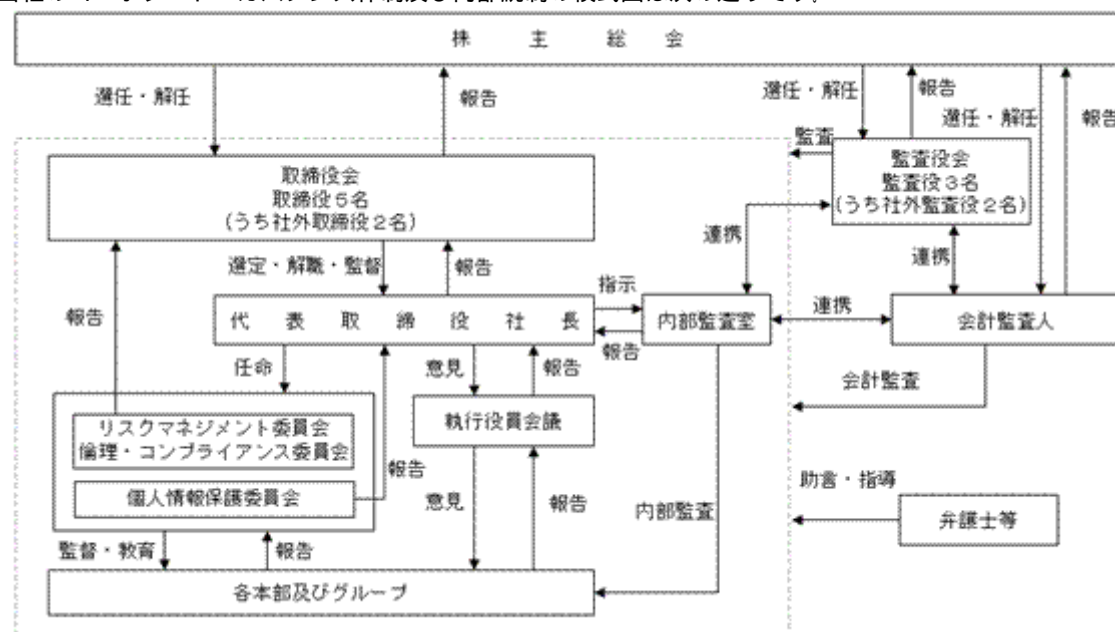
このような環境下で当社は、当社の経営の考え方の根幹となっております経営理念「感謝と喜び」を実現し、企業価値の持続的向上を図るためには、「経営の効率性」を追求し、「合理的な経営」を実践し、さらに「経営の透明性」を確保することが必要であり、併せて、経済状況の変化に素早く対応できる迅速性を兼ね備えること、同時に事業活動より生じるリスクをコントロールすることが企業統治の根幹であると認識しております。

このように当社では、企業価値の持続的な増大を図るとともに、経営の健全性及び透明性を確保するという明確な目標を持ってコーポレート・ガバナンスの強化に取り組んでおります。

そして、これを実現するために、当社では、次の3点の施策に取り組んでおります。

- (1) 業務執行責任者に対する監督・牽制の強化
- (2) 情報開示による透明性の確保
- (3) 業務執行の管理体制の整備（内部統制システム構築）

当社のコーポレート・ガバナンス体制及び内部統制の模式図は次の通りです。



上記の機関を担う取締役の選任、報酬等に関する基本的な考え方は次のとおりであります。

1) 取締役候補者の選任、報酬等に関する基本的な考え方

取締役候補者の選任については、当社事業のさらなる発展を担うという見地から、広い見識や専門性及び経験等を有する者、並びに、当社の企業理念の実現のために最大限の努力を払い、かつ、コンプライアンス機能及び経営者に対する監督機能の強化に資する適切な人材を登用するという考え方をとっております。

また、取締役の報酬については、「透明性」「公正性」「客観性」を確保し、経営目標に対する役員の個人業績を客観的に評価するプロセスを通じて報酬を決定するという考え方をとっております。

なお、取締役の報酬限度額については、株主総会決議事項となっており、個別の配分につきましては承認された総額の範囲内で取締役会決議によって評価報酬委員会に一任し、決定されております。

2) 監査役候補者の選任、報酬等に関する基本的な考え方

監査役候補者の選任については、様々な分野に関する豊富な知識、経験を有する者で、中立的・客観的な視点から監査を行うことにより、当社の内部統制システム、コンプライアンス機能、リスク及び危機管理体制、情報保存管理体制、並びに経営者に対する監督機能の強化等に資する適切な人材を登用するという考え方を取っております。

また、監査役の報酬については、業務執行から独立した立場であることから、業績を勘案する報酬体系は相応しくないため、固定報酬とする考え方をとっております。

なお、監査役の報酬限度額につきましては、株主総会決議事項となっており、個別の配分につきましては承認された報酬額の範囲内で監査役会での協議によって決定されております。

3) 会計監査人の選任監査報酬等に関する基本的な考え方

会計監査人の選任については、当社の業務内容、及び最新の会計方針に精通していること等の要素を勘案し、適切な会計監査人を登用するという考え方をとっております。

報酬については、会計監査人の独立性を損なわない監査体制の保持を前提に、監査日数、当社の規模・事業の特性等の要素を勘案する考え方をとっております。

なお、会計監査人の報酬等は、代表取締役が監査役会の同意を得て定める旨を定款に定めております。

4) 内部統制システムの整備の状況

当社は、業務の適正を確保するための必要な体制を整備し、適切に運用していくことが経営の重要な責務であると認識し、「内部統制システムの整備に関する基本方針」を制定しております。

1. 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

(1) 取締役会は、法令・定款・取締役会規程等に基づき、経営に関する重要事項を決定するとともに、取締役の職務執行を監督する。

(2) 監査役は、法令が定める権限を行使するとともに、監査役監査基準等に基づき取締役の職務の執行を監督する。

(3) 当社の役職員が法令・定款を遵守し、健全な社会規範の下にその職務を遂行するため、倫理・コンプライアンス管理規程を制定する。

また、当社の役職員に対し、遵守すべき社会規範、各種法令、当社就業規則、その他の諸規程の遵守について周知徹底する。

2. 取締役の職務執行にかかわる情報の保存および管理に関する体制

取締役の職務執行にかかわる情報については、法令および社内規程に基づき保存および管理を行う。

3. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

当社はリスク管理体制を構築するための危機管理に関連する諸規程を定め、平常時からリスクの低減および危機の未然防止に努めるとともに、重大な危機が発生した場合の即応体制を整備・維持する。

4. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

毎月1回の定例取締役会および必要に応じて適宜、臨時取締役会を開催し、重要事項に関し、取締役の職務の執行を適正かつ効率的に行う。

また、取締役会にて定められた経営方針に基づき、執行役員を含め具体的な施策の実施を図る。

5. 当社並びにその親会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

グループ会社における業務の適正を確保するため、グループ企業全てに適用する行動方針として、倫理・コンプライアンス管理規程を示し、これを基礎として、グループ各社で諸規程を定めることとする。

なお、グループ会社の経営については、当社から取締役および監査役を派遣し、経営執行の適正をモニタリングしていく。

6. 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役がその職務を補助する使用人を置くことを求めた場合は、必要に応じて当社の使用人から監査役スタッフを置くこととし、当該人事に関して監査役会の同意の下に、取締役との意見交換を行い慎重に検討する。

7. 取締役および使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制および監査役が実効的に行われることを確保するための体制

取締役、執行役員および使用人は監査役に対して、法定の事項に加え監査役の要請に応じて必要な報告および情報提供を行う。

また、監査役と代表取締役、会計監査人および内部監査部門等との定期的な意見交換会を設定する。

また、当社は支配株主を有しておりませんので、支配株主と取引等を行う際の少数株主の保護のための方策については、該当事項はありません。

経営上の意思決定等に係る経営管理組織の構成、決定方法及びプロセス

当社においては、コーポレート・ガバナンスの充実・強化のため、次のとおり取り組んでおります。

- (a) 取締役会については、社外取締役2名を含む取締役5名で構成されており、意思決定機関としての透明性、公平性を確保しております。当社は、取締役会を毎月1回開催しており、さらに必要に応じて臨時取締役会を開催しております。また、会社法及び取締役会規程に定められた取締役会決議事項以外についても、稟議書において機動的に意思決定することにより、経営における情報・判断・決定・実行の共有化を図ると共に、経営の迅速性を確保しております。
- (b) 監査機能については、監査役会制度を採用しております。監査役会は、社外監査役2名を含む監査役3名により構成され、毎月1回開催されております。また、各監査役は、監査計画に基づき、会計監査人及び内部監査室と連携のもと、経営の透明度を支える体制を整備しております。なお、内部監査室は室長以下3名で構成されており、同室は、社内各部門及び子会社を対象として、法令、定款及び社内規程等に基づき、適法・適正に業務が行われているか内部監査を実施し、その結果を代表取締役社長に報告するとともに、担当取締役、監査役らに説明しております。
- (c) 当社は、経営の監督機能と執行機能の分離を行うことを目的とし、業務執行担当として、執行役員制度を導入しており7名の執行役員を任命しております。
執行役員制度を導入することによって意思決定を迅速に行い、同時に経営責任を明確にすることに努めております。また、担当執行役員の業務執行の諮問機関として、毎月定例の執行役員会議を実施しており、さらに必要に応じて執行役員間での情報共有を図ることで経営監督機能及び業務執行機能の両面を強化することにより、経営の透明性、効率性並びに健全性を一層向上させております。
- (d) 職務権限規程及び業務分掌規程において、決裁権限及び職務分掌を明確化し、重要な意思決定については、毎月の取締役会にて決定しております。
- (e) 当社のリスク管理体制といたしましては、委員会の運営を実施しており、「リスクマネジメント委員会」、「倫理・コンプライアンス委員会」、「個人情報保護委員会」を設置しております。今後、その他業務執行上必要な特定事項につきましても必要に応じ委員会を設置してまいります。
- (f) 業務執行上疑義が生じた場合は、必要に応じて適宜、弁護士、社会保険労務士等の第三者に対して、助言を仰いでおります。

(g) 会計監査人の状況

会計監査人の状況につきましては、業務を執行した公認会計士2名（下表参照）及び補助者13名（公認会計士9名、その他4名）で監査業務を実施しております。なお、継続監査年数は、全員7年以内であるため、記載を省略しております。

| 氏名 | 所属 |
|----------------------|--------------|
| 指定有限責任社員 業務執行社員 山本 守 | 有限責任 あずさ監査法人 |
| 指定有限責任社員 業務執行社員 杉山 勝 | 有限責任 あずさ監査法人 |

(h) 取締役の定数

当社の取締役は7名以内とする旨を定款に定めております。

(i) 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、社外取締役、社外監査役のいずれについても法令で定める最低責任限度額としております。なお、当該責任限定が認められるのは当該社外取締役または社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。これは取締役及び監査役が職務を遂行するにあたり、その能力を十分に発揮して、期待される役割を果たしうる環境を整備することを目的とするものであります。

(j) 取締役、監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であったものを含む）及び監査役（監査役であったものを含む）の責任を法令の限度において免除できる旨、定款に定めております。

(k) 取締役の選任決議

当社は、取締役の選任決議について議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。また、取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする旨、定款に定めております。

(l) 株主総会の特別決議の要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(m) 社外取締役、社外監査役との関係

当社の社外取締役は2名、社外監査役は2名であります。

社外取締役及び社外監査役個人との間に人的関係、資本関係、取引関係その他の利害関係はありません。

社外取締役鬼澤盛夫は、当社の事業に関連する業界についての豊富な経験と深い知見を有しており、当社の経営全般に対して、様々な観点からの助言を頂くため、選任しております。

社外監査役加來英彦は、経理・財務についての豊富な経験と深い知見を有しており、監査役会の客観性や中立性を重視する観点から、選任しております。

社外取締役川原浩及び社外監査役久保田幸雄は、当社に出資しているカーライル・グループのファンドのアドバイザーであるカーライル・ジャパン・エルエルシーのスタッフであります。カーライル・グループは当社株式を保有しておりますが、取締役、監査役個人と当社が利害関係を有するものではありません。

(n) 社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針の内容

当社は、社外取締役及び社外監査役の選任に当たっては、専門的知識や豊富な経験を持ち、会社から独立した客観的・中立的な立場のもと、一般株主との利益相反を生じるおそれがないものと判断した上で選任しております。選任における独立性に関する社内の基準又は方針はありませんが、その判断においては、東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

(o) 役員報酬等

当事業年度における役員報酬等は、以下のとおりです。

| 役員区分 | 報酬等の 総額 (千円) | 報酬等の種類別の総額(千円) | | | | 対象となる 役員の員数 (人) |
|-------------------|--------------------|----------------|---------------|--------|-------|-----------------------|
| | | 基本報酬 | ストック オプション | 賞与 | 退職慰労金 | |
| 取締役 (社外取締役を除く) | 95,390 | 69,600 | - | 25,790 | - | 3 |
| 監査役 (社外監査役を除く) | 12,000 | 12,000 | - | - | - | 1 |
| 社外役員 | 6,550 | 6,550 | - | - | - | 2 |

(p) 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社における、役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針は、株主総会において報酬の限度額を決議し、その限度額内での報酬額の決定に関しては、取締役については評価報酬委員会に一任され、監査

役については監査役会の協議によってそれぞれ決定することとなっております。

(q) 株式の保有状況

イ．投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
3銘柄 2億65百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

| 銘柄 | 株式数(株) | 貸借対照表計上額 (千円) | 保有目的 |
|---------|--------|------------------|------------|
| 株式会社SJI | 24,866 | 255,871 | 業務提携の維持、発展 |

当事業年度

特定投資株式

| 銘柄 | 株式数(株) | 貸借対照表計上額 (千円) | 保有目的 |
|---------|--------|------------------|------------|
| 株式会社SJI | 24,866 | 245,178 | 業務提携の維持、発展 |

ハ．保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

(r) 剰余金の配当等

当社は、会社法第459条第1項各号に定める事項については、取締役会の決議によって定めることができる旨及び期末配当については毎年12月31日、中間配当については毎年6月30日を基準日として、剰余金の配当を行うことができる旨定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能にするためであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

| 前事業年度 | | 当事業年度 | |
|--------------------------|-------------------------|--------------------------|-------------------------|
| 監査証明業務に 基づく報酬 (千円) | 非監査業務に 基づく報酬 (千円) | 監査証明業務に 基づく報酬 (千円) | 非監査業務に 基づく報酬 (千円) |
| 20,000 | - | 22,000 | 2,500 |

【その他重要な報酬の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前事業年度)

該当事項はありません。

(当事業年度)

非監査業務の内容は、国際会計基準への対応準備に関するアドバイザー業務であります。

【監査報酬の決定方針】

監査公認会計士に対する報酬の額の決定に関する方針は、代表取締役が監査役会の同意を得て定める旨を定款に定めております。

第5【経理の状況】

1．財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成24年1月1日から平成24年12月31日まで）の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表について

「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を誤らせない程度に重要性が乏しいものとして、連結財務諸表は作成しておりません。

4．財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みとして、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、監査法人や専門的情報を有する団体等が行うセミナーに参加しております。

1【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成23年12月31日) | 当事業年度 (平成24年12月31日) |
|---------------|------------------------|------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,953,640 | 3,604,657 |
| 受取手形 | 26,010 | 56,923 |
| 売掛金 | 2,116,627 | 2,266,245 |
| 商品 | 105,489 | 95,819 |
| 仕掛品 | 5,787 | - |
| 貯蔵品 | 11,254 | 5,692 |
| 前払費用 | 199,275 | 211,219 |
| 繰延税金資産 | 1,136,191 | 1,236,868 |
| 未収入金 | 1,315,565 | 1,277,506 |
| その他 | 10,836 | 15,790 |
| 貸倒引当金 | 5,557 | 9,085 |
| 流動資産合計 | 7,875,118 | 8,761,635 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 388,445 | 392,559 |
| 減価償却累計額 | 134,747 | 170,524 |
| 建物(純額) | 253,698 | 222,035 |
| 構築物 | 3,932 | 3,932 |
| 減価償却累計額 | 2,510 | 2,766 |
| 構築物(純額) | 1,422 | 1,166 |
| 車両運搬具 | 24,653 | 24,653 |
| 減価償却累計額 | 20,786 | 22,398 |
| 車両運搬具(純額) | 3,866 | 2,254 |
| 工具、器具及び備品 | 550,609 | 598,459 |
| 減価償却累計額 | 413,569 | 482,998 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 137,039 | 115,460 |
| リース資産 | 50,314 | 124,686 |
| 減価償却累計額 | 18,914 | 37,654 |
| リース資産(純額) | 31,400 | 87,031 |
| 土地 | 92,978 | 92,978 |
| 有形固定資産合計 | 520,405 | 520,925 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 12,037,202 | 11,368,469 |
| ソフトウェア | 1,084,317 | 1,107,024 |
| 無形固定資産合計 | 13,121,520 | 12,475,494 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 275,871 | 265,178 |
| 関係会社出資金 | - | 100,000 |
| 従業員に対する長期貸付金 | 2,275 | 1,763 |
| 破産更生債権等 | 12,774 | 9,360 |
| 長期前払費用 | 25,100 | 79,216 |
| 敷金及び保証金 | 432,853 | 409,271 |
| 繰延税金資産 | 1,256,465 | - |
| その他 | 5,550 | 5,550 |
| 貸倒引当金 | 12,774 | 9,360 |
| 投資その他の資産合計 | 1,998,115 | 860,979 |
| 固定資産合計 | 15,640,041 | 13,857,399 |
| 資産合計 | 23,515,160 | 22,619,034 |

| | 前事業年度 (平成23年12月31日) | 当事業年度 (平成24年12月31日) |
|-----------------|------------------------|------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形 | 96,868 | 83,792 |
| 買掛金 | 289,658 | 317,906 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | - | 1,500,000 |
| リース債務 | 10,562 | 24,779 |
| 未払金 | 2,072,848 | 2,084,995 |
| 未払費用 | 414,480 | 420,559 |
| 未払法人税等 | 89,679 | 84,716 |
| 未払消費税等 | 82,233 | 67,655 |
| 前受金 | 43,745 | 45,708 |
| 預り金 | 67,783 | 68,252 |
| 賞与引当金 | 415,288 | 405,599 |
| 損害補償損失引当金 | 47,464 | 33,955 |
| その他 | 37,350 | 31,201 |
| 流動負債合計 | 3,667,962 | 5,169,122 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 5,500,000 | 2,250,000 |
| リース債務 | 23,290 | 60,186 |
| 資産除去債務 | 110,094 | 111,308 |
| 繰延税金負債 | - | 9,988 |
| 固定負債合計 | 5,633,385 | 2,431,482 |
| 負債合計 | 9,301,347 | 7,600,605 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 5,615,675 | 5,615,675 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | 5,615,675 | 5,615,675 |
| 資本剰余金合計 | 5,615,675 | 5,615,675 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | 2,982,462 | 3,797,771 |
| 利益剰余金合計 | 2,982,462 | 3,797,771 |
| 自己株式 | - | - |
| 株主資本合計 | 14,213,812 | 15,029,121 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | - | 10,692 |
| 評価・換算差額等合計 | - | 10,692 |
| 純資産合計 | 14,213,812 | 15,018,428 |
| 負債純資産合計 | 23,515,160 | 22,619,034 |

【損益計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日) |
|---------------------|---|---|
| 売上高 | | |
| 製品売上高 | 11,327,394 | 10,980,088 |
| 商品売上高 | 688,890 | 676,217 |
| 役務収益 | 3,301,455 | 3,985,690 |
| 売上高合計 | 15,317,740 | 15,641,996 |
| 売上原価 | | |
| 製品売上原価 | 3,161,802 | 3,201,955 |
| 商品売上原価 | 326,717 | 327,991 |
| 役務売上原価 | 1,050,960 | 1,086,191 |
| 売上原価合計 | 4,539,480 | 4,616,137 |
| 売上総利益 | 10,778,260 | 11,025,859 |
| 販売費及び一般管理費 | 1, 2 9,006,125 | 1, 2 8,911,800 |
| 営業利益 | 1,772,135 | 2,114,058 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1,033 | 640 |
| 受取配当金 | 4,973 | 4,973 |
| 受取補償金 | 6,181 | 7,409 |
| 受取報奨金 | 3,956 | 4,417 |
| その他 | 8,845 | 7,845 |
| 営業外収益合計 | 24,989 | 25,285 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 167,942 | 51,717 |
| コミットメントフィー | 5,000 | 3,116 |
| 損害補償損失引当金繰入額 | 18,995 | 7,679 |
| 支払手数料 | - | 5 25,000 |
| 株式公開費用 | - | 9,000 |
| その他 | 6,365 | 7,058 |
| 営業外費用合計 | 198,303 | 103,572 |
| 経常利益 | 1,598,820 | 2,035,772 |
| 特別利益 | | |
| 貸倒引当金戻入額 | 5,729 | - |
| 特別利益合計 | 5,729 | - |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 3 1,875 | 3 187 |
| 投資有価証券評価損 | 331,544 | - |
| 関係会社整理損 | 4 3,783 | - |
| 災害による損失 | 20,576 | - |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 21,862 | - |
| デューデリジェンス費用 | 59,978 | - |
| 特別損失合計 | 439,620 | 187 |
| 税引前当期純利益 | 1,164,930 | 2,035,585 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 54,500 | 54,500 |
| 法人税等調整額 | 2,392,656 | 1,165,776 |
| 法人税等合計 | 2,338,156 | 1,220,276 |
| 当期純利益 | 3,503,086 | 815,309 |

【売上原価明細書】

| 区分 | 注記 番号 | 前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日) | | 当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日) | |
|-----------|----------|---|------------|---|------------|
| | | 金額(千円) | 構成比 (%) | 金額(千円) | 構成比 (%) |
| (製品売上原価) | | | | | |
| 商品期首たな卸高 | | 75,274 | | 74,547 | |
| 当期製品製造原価 | | 1,144,054 | | 1,370,648 | |
| 当期商品仕入高 | | 1,392,644 | | 1,284,232 | |
| ソフトウェア償却費 | | 624,377 | | 535,065 | |
| 計 | | 3,236,350 | | 3,264,493 | |
| 商品期末たな卸高 | | 74,547 | | 62,538 | |
| 製品売上原価 | | 3,161,802 | | 3,201,955 | |
| (商品売上原価) | | | | | |
| 商品期首たな卸高 | | 31,783 | | 30,941 | |
| 当期商品仕入高 | | 325,876 | | 330,329 | |
| 計 | | 357,659 | | 361,271 | |
| 商品期末たな卸高 | | 30,941 | | 33,280 | |
| 商品売上原価 | | 326,717 | | 327,991 | |
| (役務売上原価) | | | | | |
| 労務費 | 1 | 373,623 | 35.6 | 381,040 | 35.1 |
| 外注費 | | 146,432 | 13.9 | 131,636 | 12.1 |
| 経費 | 2 | 530,903 | 50.5 | 573,513 | 52.8 |
| 役務売上原価 | | 1,050,960 | 100.0 | 1,086,191 | 100.0 |

(注) 1. 労務費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

| | | 前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日) |
|----------|------|---|---|
| 給料及び賞与 | (千円) | 294,969 | 301,533 |
| 賞与引当金繰入額 | (千円) | 28,075 | 26,315 |
| 法定福利費 | (千円) | 45,454 | 47,935 |

2. 経費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

| | | 前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日) |
|---------|------|---|---|
| 旅費及び交通費 | (千円) | 43,431 | 45,869 |
| 通信費 | (千円) | 6,980 | 6,354 |
| 減価償却費 | (千円) | 3,459 | 3,902 |
| 賃借料 | (千円) | 58,550 | 65,654 |
| 支払手数料 | (千円) | 221,071 | 214,408 |

【製造原価明細書】

| 区分 | 注記 番号 | 前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日) | | 当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日) | |
|-----------|----------|---------------------------------------|------------|---------------------------------------|------------|
| | | 金額(千円) | 構成比 (%) | 金額(千円) | 構成比 (%) |
| 労務費 | 2 | 801,188 | 40.6 | 766,593 | 37.4 |
| 外注費 | | 931,198 | 47.1 | 1,020,967 | 49.8 |
| 経費 | 3 | 243,851 | 12.3 | 263,583 | 12.8 |
| 当期総製造費用 | | 1,976,238 | 100.0 | 2,051,145 | 100.0 |
| 仕掛品期首たな卸高 | | 19,057 | | 5,787 | |
| 計 | | 1,995,296 | | 2,056,932 | |
| 他勘定振替高 | 4 | 845,454 | | 686,284 | |
| 仕掛品期末たな卸高 | | 5,787 | | - | |
| 当期製品製造原価 | | 1,144,054 | | 1,370,648 | |

(注) 1. 原価計算の方法

プロジェクト別の個別原価計算によっております。

2. 労務費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

| | | 前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日) | 当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日) |
|----------|------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 給料及び賞与 | (千円) | 627,436 | 607,629 |
| 賞与引当金繰入額 | (千円) | 58,269 | 51,398 |
| 法定福利費 | (千円) | 105,148 | 97,151 |

3. 経費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

| | | 前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日) | 当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日) |
|---------|------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 旅費及び交通費 | (千円) | 39,217 | 37,570 |
| 通信費 | (千円) | 14,438 | 13,106 |
| 減価償却費 | (千円) | 45,845 | 40,093 |
| 賃借料 | (千円) | 70,823 | 76,249 |

4. 他勘定振替高の内訳

| | | 前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日) | 当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日) |
|--------|------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| ソフトウェア | (千円) | 479,898 | 515,144 |
| 研究開発費 | (千円) | 365,556 | 171,139 |
| 計 | (千円) | 845,454 | 686,284 |

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日) |
|-----------------|---|---|
| 株主資本 | | |
| 資本金 | | |
| 当期首残高 | 5,614,175 | 5,615,675 |
| 当期変動額 | | |
| 新株の発行 | 1,500 | - |
| 当期変動額合計 | 1,500 | - |
| 当期末残高 | 5,615,675 | 5,615,675 |
| 資本剰余金 | | |
| 資本準備金 | | |
| 当期首残高 | 5,614,175 | 5,615,675 |
| 当期変動額 | | |
| 新株の発行 | 1,500 | - |
| 当期変動額合計 | 1,500 | - |
| 当期末残高 | 5,615,675 | 5,615,675 |
| 資本剰余金合計 | | |
| 当期首残高 | 5,614,175 | 5,615,675 |
| 当期変動額 | | |
| 新株の発行 | 1,500 | - |
| 当期変動額合計 | 1,500 | - |
| 当期末残高 | 5,615,675 | 5,615,675 |
| 利益剰余金 | | |
| その他利益剰余金 | | |
| 繰越利益剰余金 | | |
| 当期首残高 | 520,624 | 2,982,462 |
| 当期変動額 | | |
| 当期純利益 | 3,503,086 | 815,309 |
| 当期変動額合計 | 3,503,086 | 815,309 |
| 当期末残高 | 2,982,462 | 3,797,771 |
| 利益剰余金合計 | | |
| 当期首残高 | 520,624 | 2,982,462 |
| 当期変動額 | | |
| 当期純利益 | 3,503,086 | 815,309 |
| 当期変動額合計 | 3,503,086 | 815,309 |
| 当期末残高 | 2,982,462 | 3,797,771 |
| 自己株式 | | |
| 当期首残高 | - | - |
| 当期変動額 | | |
| 自己株式の取得 | - | 4,230 |
| 自己株式の処分 | - | 4,230 |
| 当期変動額合計 | - | - |
| 当期末残高 | - | - |
| 株主資本合計 | | |
| 当期首残高 | 10,707,725 | 14,213,812 |
| 当期変動額 | | |
| 新株の発行 | 3,000 | - |
| 当期純利益 | 3,503,086 | 815,309 |
| 自己株式の取得 | - | 4,230 |
| 自己株式の処分 | - | 4,230 |
| 当期変動額合計 | 3,506,086 | 815,309 |
| 当期末残高 | 14,213,812 | 15,029,121 |

| | 前事業年度 (自 平成23年 1月 1日 至 平成23年12月31日) | 当事業年度 (自 平成24年 1月 1日 至 平成24年12月31日) |
|---------------------|---|---|
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | | |
| 当期首残高 | 99,961 | - |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 99,961 | 10,692 |
| 当期変動額合計 | 99,961 | 10,692 |
| 当期末残高 | - | 10,692 |
| 評価・換算差額等合計 | | |
| 当期首残高 | 99,961 | - |
| 当期変動額 | | |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 99,961 | 10,692 |
| 当期変動額合計 | 99,961 | 10,692 |
| 当期末残高 | - | 10,692 |
| 純資産合計 | | |
| 当期首残高 | 10,607,764 | 14,213,812 |
| 当期変動額 | | |
| 新株の発行 | 3,000 | - |
| 当期純利益 | 3,503,086 | 815,309 |
| 自己株式の取得 | - | 4,230 |
| 自己株式の処分 | - | 4,230 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額（純額） | 99,961 | 10,692 |
| 当期変動額合計 | 3,606,047 | 804,616 |
| 当期末残高 | 14,213,812 | 15,018,428 |

【キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日) | 当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日) |
|-------------------------|---|---|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税引前当期純利益 | 1,164,930 | 2,035,585 |
| 減価償却費 | 824,753 | 740,355 |
| のれん償却額 | 668,733 | 668,733 |
| 貸倒引当金の増減額(は減少) | 44,580 | 114 |
| 賞与引当金の増減額(は減少) | 16,362 | 9,689 |
| 損害補償損失引当金の増減額(は減少) | 1,055 | 13,509 |
| 受取利息及び受取配当金 | 6,006 | 5,613 |
| 支払利息 | 167,942 | 51,717 |
| コミットメントフィー | 5,000 | 3,116 |
| 支払手数料 | - | 25,000 |
| 投資有価証券評価損益(は益) | 331,544 | - |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 21,862 | - |
| 売上債権の増減額(は増加) | 177,770 | 180,530 |
| たな卸資産の増減額(は増加) | 16,383 | 21,019 |
| 未収入金の増減額(は増加) | 7,348 | 39,196 |
| 仕入債務の増減額(は減少) | 7,636 | 15,171 |
| 未払金の増減額(は減少) | 42,068 | 29,867 |
| 未払費用の増減額(は減少) | 15,236 | 2,891 |
| その他 | 31,121 | 88,000 |
| 小計 | 3,222,199 | 3,335,424 |
| 利息及び配当金の受取額 | 6,015 | 5,613 |
| 利息の支払額 | 176,523 | 48,515 |
| 法人税等の支払額 | 52,129 | 54,531 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 2,999,562 | 3,237,990 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | 44,835 | 82,515 |
| 無形固定資産の取得による支出 | 507,034 | 632,508 |
| 投資有価証券の取得による支出 | 15,000 | - |
| 関係会社出資金の払込による支出 | - | 100,000 |
| 関係会社の整理による収入 | 33,370 | - |
| 定期預金の払戻による収入 | - | 30,000 |
| 敷金及び保証金の差入による支出 | 45,457 | 12,333 |
| 敷金及び保証金の回収による収入 | 10,498 | 34,777 |
| その他 | 10,354 | 2,429 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 558,102 | 760,149 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 長期借入れによる収入 | - | 4,500,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | 2,000,000 | 6,250,000 |
| 株式の発行による収入 | 3,000 | - |
| 自己株式の売却による収入 | - | 4,230 |
| 自己株式の取得による支出 | - | 4,230 |
| コミットメントフィーの支払額 | 4,986 | 3,130 |
| 支払手数料の支払額 | - | 25,000 |
| リース債務の返済による支出 | 10,300 | 18,694 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 2,012,286 | 1,796,824 |
| 現金及び現金同等物の増減額(は減少) | 429,173 | 681,017 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 2,494,466 | 2,923,640 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 2,923,640 | 3,604,657 |

【重要な会計方針】

1．有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法によっております。

(2) その他有価証券

(時価のあるもの)

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)によっております。

(時価のないもの)

移動平均法による原価法によっております。

2．たな卸資産の評価基準及び評価方法

(1) 商品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。

(2) 仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。

(3) 貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)によっております。

3．固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法(ただし、建物(建物附属設備を除く)は定額法)によっております。

なお、主な耐用年数は、以下のとおりであります。

建物 11～43年

工具、器具及び備品 4～6年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

ただし、自社利用目的のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。また、市場販売目的のソフトウェアについては、見込販売収益に基づく償却額と残存有効期間(3年以内)に基づく均等配分額とを比較し、いずれか大きい額を計上しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リースのうち、リース取引期間開始日が平成20年12月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(4) のれん

20年間の均等償却を行っております。

4．引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に充てるため、支給見込額のうち、当事業年度に対応する負担額を計上しております。

(3) 損害補償損失引当金

損害補償の支払による損失に備えるため、補償履行による損失負担見込額を計上しております。

5. 収益及び費用の計上基準

受注製作のソフトウェア開発に係る収益及び費用の計上基準

- (1) 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）
- (2) その他の工事
工事完成基準

6. キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3か月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

7. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

【会計方針の変更】

（1株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用）

当事業年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）、
「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日公表分）及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第9号 平成22年6月30日）を適用しております。この適用により、当事業年度に株式分割を行いました。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

なお、これによる影響については、「（1株当たり情報）」に記載しております。

【表示方法の変更】

（損益計算書）

前事業年度において、独立掲記しておりました「営業外収益」の「受取保険金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」の「受取保険金」に表示していた449千円は、「その他」として組み替えております。

【追加情報】

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

なお、「金融商品会計に関する実務指針」（日本公認会計士協会会計制度委員会報告第14号）に基づき、前事業年度の「貸倒引当金戻入額」については遡及処理を行っておりません。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産

| | 前事業年度 (平成23年12月31日) | 当事業年度 (平成24年12月31日) |
|--------------|------------------------|------------------------|
| 現金及び預金(定期預金) | 30,000千円 | -千円 |

上記に対応する債務

| | 前事業年度 (平成23年12月31日) | 当事業年度 (平成24年12月31日) |
|------|------------------------|------------------------|
| 保証債務 | 190,558千円 | -千円 |

(注)上記の保証債務の金額は損害補償損失引当金控除後の金額であります。

担保に供している資産

| | 前事業年度 (平成23年12月31日) | 当事業年度 (平成24年12月31日) |
|--------|------------------------|------------------------|
| 売掛金 | 703,961千円 | -千円 |
| 建物 | 66,615 | - |
| 土地 | 92,360 | - |
| 投資有価証券 | 255,871 | - |

上記に対応する債務

| | 前事業年度 (平成23年12月31日) | 当事業年度 (平成24年12月31日) |
|-------|------------------------|------------------------|
| 長期借入金 | 5,500,000千円 | -千円 |

2 保証債務

当社システムをリースにより購入した顧客の未経過リース料の一部について債務保証を行っております。

| | 前事業年度 (平成23年12月31日) | 当事業年度 (平成24年12月31日) |
|-------------|------------------------|--------------------------|
| 一般顧客10,316社 | 260,288千円 | 一般顧客11,370社 266,437千円 |

(注)上記の保証債務金額は損害補償損失引当金控除後の金額であります。

3 当社は、効率的な運転資金の調達を図るため、取引銀行と金銭消費貸借契約を締結し、コミットメントラインを設定しております。この契約に基づく事業年度末の借入実行残高は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (平成23年12月31日) | 当事業年度 (平成24年12月31日) |
|---------------|------------------------|------------------------|
| コミットメントラインの総額 | 1,000,000千円 | 1,000,000千円 |
| 借入実行残高 | - | - |
| 差引額 | 1,000,000 | 1,000,000 |

(損益計算書関係)

1 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度55.3%、当事業年度54.3%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度44.7%、当事業年度45.7%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日) | 当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日) |
|----------|---|---|
| 給料及び手当 | 3,247,934千円 | 3,239,394千円 |
| 法定福利費 | 498,811 | 500,237 |
| 賞与引当金繰入額 | 328,944 | 322,432 |
| 旅費及び交通費 | 757,472 | 773,813 |
| 研究開発費 | 373,818 | 171,139 |
| 減価償却費 | 151,071 | 161,293 |
| のれん償却費 | 668,733 | 668,733 |
| 賃借料 | 1,006,965 | 972,182 |

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

| | 前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日) | 当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日) |
|--|---|---|
| | 373,818千円 | 171,139千円 |

3 固定資産除却損の内訳は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日) | 当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日) |
|-----------|---|---|
| 建物 | 1,558千円 | - 千円 |
| 工具、器具及び備品 | 316 | 187 |
| 計 | 1,875 | 187 |

4 関係会社整理損の内訳は次のとおりであります。

| | 前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日) | 当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日) |
|---------|---|---|
| 子会社清算損失 | 3,783千円 | - 千円 |

5 営業外費用に計上されている「支払手数料」は長期借入金の借換にかかわる手数料を計上しておりません。

| | 前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日) | 当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日) |
|--|---|---|
| | - 千円 | 25,000千円 |

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自平成23年1月1日至平成23年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 当事業年度期首 株式数 (株) | 当事業年度 増加株式数 (株) | 当事業年度 減少株式数 (株) | 当事業年度末 株式数 (株) |
|---------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式(注) | 224,567 | 60 | - | 224,627 |
| 合計 | 224,567 | 60 | - | 224,627 |

(注) 普通株式の発行済株式数の増加60株は、第三者割当増資によるものであります。

2. 配当に関する事項

該当事項はありません。

当事業年度(自平成24年1月1日至平成24年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

| | 当事業年度期首 株式数 (株) | 当事業年度 増加株式数 (株) | 当事業年度 減少株式数 (株) | 当事業年度末 株式数 (株) |
|----------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|----------------------|
| 発行済株式 | | | | |
| 普通株式(注)1 | 224,627 | 22,238,073 | - | 22,462,700 |
| 合計 | 224,627 | 22,238,073 | - | 22,462,700 |
| 自己株式 | | | | |
| 普通株式(注)2 | - | 4,700 | 4,700 | - |
| 合計 | - | 4,700 | 4,700 | - |

(注) 1. 普通株式の発行済株式数の増加22,238,073株は、取締役会決議に基づき、平成24年9月18日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行ったことによる増加であります。

2. 普通株式の自己株式数の増加4,700株は、株主総会決議に基づく自己株式の取得によるものであります。

普通株式の自己株式数の減少4,700株は、株主総会決議に基づく第三者割当による自己株式の処分によるものであります。

2. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

| | 前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日) | 当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日) |
|------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 現金及び預金勘定 | 2,953,640千円 | 3,604,657千円 |
| 預入期間が3か月を超える定期預金 | 30,000 | - |
| 現金及び現金同等物 | 2,923,640 | 3,604,657 |

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引(借主側)

リース取引開始日が平成20年12月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

| | 前事業年度(平成23年12月31日) | | | |
|-----------|--------------------|------------|------------|---------|
| | 取得価額相当額 | 減価償却累計額相当額 | 減損損失累計額相当額 | 期末残高相当額 |
| 工具、器具及び備品 | 238,843 | 184,601 | 22,545 | 31,696 |
| ソフトウェア | 100,742 | 89,590 | - | 11,152 |
| 合計 | 339,586 | 274,192 | 22,545 | 42,848 |

(単位：千円)

| | 当事業年度(平成24年12月31日) | | | |
|-----------|--------------------|------------|------------|---------|
| | 取得価額相当額 | 減価償却累計額相当額 | 減損損失累計額相当額 | 期末残高相当額 |
| 工具、器具及び備品 | - | - | - | - |
| ソフトウェア | - | - | - | - |
| 合計 | - | - | - | - |

(注) 当事業年度において対象となるリース契約は終了したため、該当事項はありません。

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

| | 前事業年度 (平成23年12月31日) | 当事業年度 (平成24年12月31日) |
|----------------|------------------------|------------------------|
| 未経過リース料期末残高相当額 | | |
| 1年内 | 51,254 | - |
| 1年超 | - | - |
| 合計 | 51,254 | - |
| リース資産減損勘定の期末残高 | 6,148 | - |

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び支払利息相当額

(単位：千円)

| | 前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日) | 当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日) |
|---------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 支払リース料 | 74,108 | 51,764 |
| リース資産減損勘定の取崩額 | 8,198 | 6,148 |
| 減価償却費相当額 | 61,833 | 42,848 |
| 支払利息相当額 | 2,083 | 510 |

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額の算定方法

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法につきましては、利息法によっております。

2. オペレーティング・リース取引（借主側）

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

（単位：千円）

| | 前事業年度 （平成23年12月31日） | 当事業年度 （平成24年12月31日） |
|-----|------------------------|------------------------|
| 1年内 | 226,852 | 226,852 |
| 1年超 | 521,338 | 294,485 |
| 合計 | 748,190 | 521,338 |

（金融商品関係）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行借入により資金調達を行っております。また、デリバティブは外貨建債権債務の為替変動リスクを回避するためや借入金の金利変動リスクを回避するためなどに利用し、投機的な取引は行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びに管理体制

受取手形、売掛金及び未収入金にかかる顧客の信用リスクは、取引限度規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券はすべて株式であり、市場価格の変動リスクがありますが、定期的に時価や投資先企業の財政状態を把握し、適正に評価の見直しを行っております。

支払手形、買掛金及び未払金はすべて1年以内の支払期日です。営業債務や借入金は、流動性リスクに晒されておりますが、当社では、月次に資金繰計画を作成するなどの方法により管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

前事業年度（平成23年12月31日）

| | 貸借対照表計上額 （千円） | 時価（千円） | 差額（千円） |
|-----------------------|------------------|-------------|--------|
| (1) 現金及び預金 | 2,953,640 | 2,953,640 | - |
| (2) 受取手形 | 26,010 | 26,010 | - |
| (3) 売掛金 | 2,116,627 | 2,116,627 | - |
| (4) 未収入金 | 1,315,565 | 1,315,565 | - |
| (5) 投資有価証券 その他有価証券 | 255,871 | 255,871 | - |
| 資産計 | 6,667,714 | 6,667,714 | - |
| (1) 支払手形 | (96,868) | (96,868) | - |
| (2) 買掛金 | (289,658) | (289,658) | - |
| (3) 未払金 | (2,072,848) | (2,072,848) | - |
| (4) 長期借入金 | (5,500,000) | (5,500,000) | - |
| 負債計 | (7,959,375) | (7,959,375) | - |

（*）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

当事業年度（平成24年12月31日）

| | 貸借対照表計上額 (千円) | 時価(千円) | 差額(千円) |
|-----------------------|------------------|-------------|--------|
| (1) 現金及び預金 | 3,604,657 | 3,604,657 | - |
| (2) 受取手形 | 56,923 | 56,923 | - |
| (3) 売掛金 | 2,266,245 | 2,266,245 | - |
| (4) 未収入金 | 1,277,506 | 1,277,506 | - |
| (5) 投資有価証券 その他有価証券 | 245,178 | 245,178 | - |
| 資産計 | 7,450,510 | 7,450,510 | - |
| (1) 支払手形 | (83,792) | (83,792) | - |
| (2) 買掛金 | (317,906) | (317,906) | - |
| (3) 未払金 | (2,084,995) | (2,084,995) | - |
| (4) 長期借入金 | (3,750,000) | (3,750,000) | - |
| 負債計 | (6,236,694) | (6,236,694) | - |

(*) 負債に計上されているものについては、()で示しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形、(3) 売掛金及び(4) 未収入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 投資有価証券

株式の時価は、取引所の価格によっております。

負債

(1) 支払手形、(2) 買掛金及び(3) 未払金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

長期借入金は変動金利であり金利の変動リスクを反映していることから、時価は当該帳簿価額によっております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

| 区分 | 前事業年度 (平成23年12月31日) | 当事業年度 (平成24年12月31日) |
|-------|------------------------|------------------------|
| 非上場株式 | 20,000 | 20,000 |

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難であるため、「(5) 投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額
前事業年度（平成23年12月31日）

| | 1年以内 (千円) | 1年超 5年以内 (千円) | 5年超 10年以内 (千円) | 10年超 (千円) |
|--------|--------------|---------------------|----------------------|--------------|
| 現金及び預金 | 2,953,640 | - | - | - |
| 受取手形 | 26,010 | - | - | - |
| 売掛金 | 2,116,627 | - | - | - |
| 未収入金 | 1,315,565 | - | - | - |
| 合計 | 6,411,843 | - | - | - |

当事業年度（平成24年12月31日）

| | 1年以内 (千円) | 1年超 5年以内 (千円) | 5年超 10年以内 (千円) | 10年超 (千円) |
|--------|--------------|---------------------|----------------------|--------------|
| 現金及び預金 | 3,604,657 | - | - | - |
| 受取手形 | 56,923 | - | - | - |
| 売掛金 | 2,266,245 | - | - | - |
| 未収入金 | 1,277,506 | - | - | - |
| 合計 | 7,205,331 | - | - | - |

4. 長期借入金の決算日後の返済予定額
附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前事業年度(平成23年12月31日)

| | 種類 | 貸借対照表計上額 (千円) | 取得原価(千円) | 差額(千円) |
|--------------------------|----|------------------|----------|--------|
| 貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの | 株式 | 255,871 | 255,871 | - |
| 合計 | | 255,871 | 255,871 | - |

(注) 1. 非上場株式(貸借対照表計上額20,000千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(注) 2. 表中の「取得価額」は減損処理後の帳簿価額であります。なお、当事業年度において減損処理を行い、投資有価証券評価損316,544千円を計上しております。

当事業年度(平成24年12月31日)

| | 種類 | 貸借対照表計上額 (千円) | 取得原価(千円) | 差額(千円) |
|--------------------------|----|------------------|----------|--------|
| 貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの | 株式 | 245,178 | 255,871 | 10,692 |
| 合計 | | 245,178 | 255,871 | 10,692 |

(注) 1. 非上場株式(貸借対照表計上額20,000千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 表中の「取得価額」は前事業年度において行った減損処理後の帳簿価額であります。

2. 子会社株式及び関連会社株式

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、確定拠出年金制度を採用しております。

2. 退職給付費用に関する事項

| | 前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日) | 当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日) |
|-------------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 確定拠出年金への掛金支払額(千円) | 64,242 | 65,116 |

(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

該当事項はありません。

2. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

| | 平成22年ストック・オプション | 平成23年ストック・オプション |
|------------------------|---|---|
| 付与対象者の区分及び人数 | 当社取締役2名 当社従業員43名 | 当社従業員1名 |
| 株式の種類別のストック・オプションの数(注) | 普通株式 1,383,000株 | 普通株式 100,000株 |
| 付与日 | 平成22年4月9日 | 平成23年3月10日 |
| 権利確定条件 | 被付与者は、各新株予約権の一部行使はできないものとする。 その他の条件は、当社と被付与者との間で締結する第1回新株予約権割当て契約に定める。 | 被付与者は、各新株予約権の一部行使はできないものとする。 その他の条件は、当社と被付与者との間で締結する第2回新株予約権割当て契約に定める。 |
| 対象勤務期間 | 対象勤務期間は定められておりません。 | 対象勤務期間は定められておりません。 |
| 権利行使期間 | 平成22年4月10日から平成32年3月24日まで | 平成23年3月11日から平成33年3月2日まで |

(注) 株式数に換算して記載しております。なお、平成24年9月18日付株式分割(1株につき100株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

(2) スtock・オプションの規模及びその変動状況

当事業年度において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

| | 平成22年ストック・オプション | 平成23年ストック・オプション |
|-----------|-----------------|-----------------|
| 権利確定前 (株) | | |
| 前事業年度末 | 1,383,000 | 100,000 |
| 付与 | - | - |
| 失効 | 1,000 | - |
| 権利確定 | 553,200 | - |
| 未確定残 | 828,800 | 100,000 |
| 権利確定後 (株) | | |
| 前事業年度末 | - | - |
| 権利確定 | 553,200 | - |
| 権利行使 | - | - |
| 失効 | - | - |
| 未行使残 | 553,200 | - |

(注) 平成24年9月18日付株式分割(1株につき100株の割合)による分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

| | 平成22年ストック・オプション | 平成23年ストック・オプション |
|--------------------|-----------------|-----------------|
| 権利行使価格 (円) | 500 | 500 |
| 行使時平均株価 (円) | - | - |
| 付与日における公正な評価単価 (円) | - | - |

(注) 平成24年9月18日付株式分割(1株につき100株の割合)による分割後の価格に換算して記載しております。

3. ストックオプションの公正な評価単価の見積方法

該当事項はありません。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

5. ストック・オプションの本源的価値により算定を行う場合の当事業年度末における本源的価値の合計額及び権利行使されたストック・オプションの権利行使日における本源的価値の合計額

当事業年度末における本源的価値の合計額 - 千円

当事業年度において権利行使された本源的価値の合計額 - 千円

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

| | 前事業年度 (平成23年12月31日) | 当事業年度 (平成24年12月31日) |
|-------------------|------------------------|------------------------|
| (繰延税金資産) | | |
| 未払事業税 | 14,089千円 | 11,287千円 |
| 未払費用 | 67,907 | 52,110 |
| 貸倒引当金 | 6,813 | 6,788 |
| 賞与引当金 | 168,981 | 154,168 |
| 損害補償損失引当金 | 19,313 | 12,906 |
| 減価償却超過額 | 14,705 | 20,510 |
| 投資有価証券 | 10,371 | 10,371 |
| 繰越欠損金 | 2,070,000 | 936,905 |
| 資産除去債務 | 39,237 | 39,670 |
| その他 | 64,984 | 64,956 |
| 繰延税金資産小計 | 2,476,400 | 1,309,671 |
| 評価性引当額 | 57,564 | 61,706 |
| 繰延税金資産計 | 2,418,836 | 1,247,965 |
| (繰延税金負債) | | |
| 資産除去債務に対応する除去費用 | 26,180 | 21,085 |
| 繰延税金負債計 | 26,180 | 21,085 |
| 繰延税金資産 (負債) の純額 | 2,392,656 | 1,226,880 |

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

| | 前事業年度 (平成23年12月31日) | 当事業年度 (平成24年12月31日) |
|------------------------------|------------------------|------------------------|
| 法定実効税率 | 40.7% | 40.7% |
| (調整) | | |
| 永久に損金に算入されない項目 (交際費等) | 6.4 | 3.4 |
| 永久に損金に算入されない項目 (のれん償却費) | 23.4 | 13.4 |
| 住民税均等割等 | 4.7 | 2.7 |
| 評価性引当額 | 283.6 | 0.2 |
| 税率変更による差異 | 7.6 | - |
| その他 | 0.1 | 0.5 |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | 200.7 | 59.9 |

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

本社及び支店等の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から5～15年と見積もり、割引率は0.56～1.63%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

| | 前事業年度 (自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日) | 当事業年度 (自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日) |
|-----------------|---|---|
| 期首残高(注) | 102,201千円 | 110,094千円 |
| 有形固定資産の取得に伴う増加額 | 8,516 | - |
| 時の経過による調整額 | 1,206 | 1,213 |
| 資産除去債務の履行による減少額 | 1,829 | - |
| 期末残高 | 110,094 | 111,308 |

(注) 前事業年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、ITサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前事業年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位 千円)

| | システム販売 | システムサポート | ネットワーク サービス | 合計 |
|-----------|------------|-----------|----------------|------------|
| 外部顧客への売上高 | 11,645,913 | 1,258,974 | 2,412,852 | 15,317,740 |

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位 千円)

| 顧客の名称又は氏名 | 売上高 | 関連するセグメント名 |
|------------|-----------|------------|
| リコーリース株式会社 | 3,704,654 | ITサービス関連事業 |
| 昭和リース株式会社 | 1,807,740 | ITサービス関連事業 |

当事業年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位 千円)

| | システム販売 | システムサポート | ネットワーク サービス | 合計 |
|-----------|------------|-----------|----------------|------------|
| 外部顧客への売上高 | 11,353,277 | 1,279,998 | 3,008,720 | 15,641,996 |

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位 千円)

| 顧客の名称又は氏名 | 売上高 | 関連するセグメント名 |
|------------|-----------|------------|
| リコーリース株式会社 | 3,620,448 | ITサービス関連事業 |
| 昭和リース株式会社 | 2,162,293 | ITサービス関連事業 |

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

当社は、ITサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(ア) 財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等

前事業年度(自 平成23年1月1日 至 平成23年12月31日)

| 種類 | 会社等の名称又は氏名 | 所在地 | 資本金又は出資金(千円) | 事業の内容又は職業 | 議決権の所有割合(被所有)割合(%) | 関連当事者との関係 | 取引内容 | 取引金額(千円) | 科目 | 期末残高(千円) |
|-----|------------|--------|--------------|---------------|--------------------|------------------------|--------------|-----------|----|----------|
| 子会社 | ブラエセス株式会社 | 東京都品川区 | 10,000 | ソフトウェアの開発及び販売 | (所有)直接 100 | 当社製品の開発 役員の兼任 2名 | 債務被保証 (注) | 5,500,000 | - | - |

(注) 当社の銀行借入に係る債務保証であります。なお、保証料の支払は行っておりません。

当事業年度(自 平成24年1月1日 至 平成24年12月31日)

重要性が乏しいため記載を省略しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

| | 前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日) | 当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日) |
|--------------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 1株当たり純資産額 | 632.77円 | 668.59円 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 155.96円 | 36.30円 |

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であるため、期中平均株価が把握できませんので記載しておりません。
2. 当社は、平成24年8月10日開催の当社取締役会決議に基づき、平成24年9月18日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

(会計方針の変更)

当事業年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号平成22年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号平成22年6月30日公表分)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号平成22年6月30日)を適用しております。

この適用により、当事業年度に行った株式分割は、前事業年度の期首に行われたと仮定して1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額を算定しております。

これらの会計基準等を適用しなかった場合の、前事業年度の1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益金額は、以下のとおりであります。

1株当たり純資産額 63,277.40円

1株当たり当期純利益金額 15,595.89円

3. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

| | 前事業年度 (自平成23年1月1日 至平成23年12月31日) | 当事業年度 (自平成24年1月1日 至平成24年12月31日) |
|---|---------------------------------------|---------------------------------------|
| 当期純利益金額(千円) | 3,503,086 | 815,309 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | - | - |
| 普通株式に係る当期純利益金額(千円) | 3,503,086 | 815,309 |
| 期中平均株式数(株) | 22,461,600 | 22,462,700 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要 | - | |

(重要な後発事象)

当社は平成25年2月15日付で株式会社東京証券取引所から上場承認を受け、平成25年3月22日に上場をいたしました。

株式上場にあたり、平成25年2月15日及び平成25年3月1日開催の取締役会において、募集株式の発行及び株式の売出しを決議し、平成25年3月21日に払込が完了いたしました。

この結果、平成25年3月21日付で資本金は6,783,155千円、発行済株式総数は24,762,700株となっております。

公募による株式の発行

(1)募集方法

一般募集(ブックビルディング方式による募集)

(2)発行する株式の種類及び数

普通株式 2,300,000株

(3)発行価格

1株につき 1,080円

(4)引受価額

1株につき 1,015.20円

(5)引受人の対価

引受手数料は支払わず、これに代わるものとして、発行価格と引受価額との差額の総額を引受人の手取金とします。

(6)発行価額

1株につき 884円

この金額は会社法上の払込金額であり、平成25年3月1日開催の取締役会において決定された金額です。

(7)資本組入額

1株につき 507.60円

(8)発行価額の総額

2,033,200千円

(9)資本組込額の総額

1,167,480千円

(10)払込金額の総額

2,334,960千円

(11)払込期日

平成25年3月21日

(12)資金の用途

自動車アフターマーケット業界における当社顧客(整備事業者等)の事業を拡大を支援するためのタブレット端末やスマートフォン等を活用したサービス、当社に蓄積されているビッグデータの技術研究に係る研究開発費、ソフトウェア投資(市場販売)やネットワーク負荷増大に伴うサーバー投資等の設備資金、当社顧客(整備事業者等)のサービス提供先であるカーオーナー向けの広告宣伝費等に充当する予定です。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

| 投資有価証券 | その他有価証券 | 銘柄 | 株式数(株) | 貸借対照表計上額(千円) |
|--------|---------|----------------|--------|--------------|
| | | 株式会社SJI | 24,866 | 245,178 |
| | | 株式会社WEIC | 100 | 5,000 |
| | | 株式会社SOBAプロジェクト | 400 | 15,000 |
| 計 | | | 25,366 | 265,178 |

【有形固定資産等明細表】

| 資産の種類 | 当期首残高(千円) | 当期増加額(千円) | 当期減少額(千円) | 当期末残高(千円) | 当期末減価償却累計額又は償却累計額(千円) | 当期償却額(千円) | 差引当期末残高(千円) |
|-----------|------------|-----------|-----------|------------|-----------------------|-----------|-------------|
| 有形固定資産 | | | | | | | |
| 建物 | 388,445 | 4,114 | - | 392,559 | 170,524 | 35,777 | 222,035 |
| 構築物 | 3,932 | - | - | 3,932 | 2,766 | 256 | 1,166 |
| 車両運搬具 | 24,653 | - | - | 24,653 | 22,398 | 1,612 | 2,254 |
| 工具、器具及び備品 | 550,609 | 56,853 | 9,003 | 598,459 | 482,998 | 78,235 | 115,460 |
| リース資産 | 50,314 | 74,371 | - | 124,686 | 37,654 | 18,739 | 87,031 |
| 土地 | 92,978 | - | - | 92,978 | - | - | 92,978 |
| 有形固定資産計 | 1,110,933 | 135,338 | 9,003 | 1,237,269 | 716,343 | 134,621 | 520,925 |
| 無形固定資産 | | | | | | | |
| のれん | 13,374,669 | - | - | 13,374,669 | 2,006,200 | 668,733 | 11,368,469 |
| ソフトウェア | 4,441,966 | 628,440 | 12,500 | 5,057,906 | 3,950,881 | 605,733 | 1,107,024 |
| 無形固定資産計 | 17,816,635 | 628,440 | 12,500 | 18,432,576 | 5,957,082 | 1,274,466 | 12,475,494 |
| 長期前払費用 | 41,372 | 73,740 | 12,600 | 102,512 | 23,296 | 19,624 | 79,216 |

(注) 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

| | | |
|--------|---|-----------|
| ソフトウェア | PM.NS, RCオプション (自動車部品流通支援ネットワークシステム) | 163,922千円 |
| | SF.NS (自動車整備ネットワークシステム) | 154,349千円 |
| | PM.NS (自動車部品流通支援ネットワークシステム) | 72,640千円 |

【借入金等明細表】

| 区分 | 当期首残高 (千円) | 当期末残高 (千円) | 平均利率 (%) | 返済期限 |
|-------------------------|---------------|---------------|-------------|---------------------------|
| 1年以内に返済予定の長期借入金 | - | 1,500,000 | 0.9 | |
| 1年以内に返済予定のリース債務 | 10,562 | 24,779 | 0.8 | |
| 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。) | 5,500,000 | 2,250,000 | 0.9 | 平成26年3月31日～ 平成27年3月31日 |
| リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。) | 23,290 | 60,186 | 0.6 | 平成26年1月20日～ 平成29年5月31日 |
| 合計 | 5,533,853 | 3,834,966 | - | |

(注) 1. 「平均利率」については、期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務及び長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

| | 1年超2年以内 (千円) | 2年超3年以内 (千円) | 3年超4年以内 (千円) | 4年超5年以内 (千円) |
|-------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|
| リース債務 | 24,756 | 15,626 | 13,976 | 5,826 |
| 長期借入金 | 1,500,000 | 750,000 | - | - |

【引当金明細表】

| 区分 | 当期首残高 (千円) | 当期増加額 (千円) | 当期減少額 (目的使用) (千円) | 当期減少額 (その他) (千円) | 当期末残高 (千円) |
|-----------|---------------|---------------|-------------------------|------------------------|---------------|
| 貸倒引当金 | 18,331 | 11,513 | 3,642 | 7,756 | 18,446 |
| 賞与引当金 | 415,288 | 405,599 | 415,288 | - | 405,599 |
| 損害補償損失引当金 | 47,464 | 33,955 | 21,189 | 26,275 | 33,955 |

(注) 1. 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は回収による取崩し3,170千円及び一般債権の洗替えによる戻入れ4,586千円であります。

2. 損害補償損失引当金の「当期減少額(その他)」は洗替えによる戻入れであります。

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が財務諸表等規則第8条の28に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2)【主な資産及び負債の内容】

流動資産

イ．現金及び預金

| 区分 | 金額(千円) |
|------|-----------|
| 現金 | 3,348 |
| 預金 | |
| 当座預金 | 348,779 |
| 普通預金 | 3,252,528 |
| 小計 | 3,601,308 |
| 合計 | 3,604,657 |

ロ．受取手形

相手先別内訳

| 相手先 | 金額(千円) |
|--------------|--------|
| イスコジャパン株式会社 | 32,754 |
| 日産部品千葉販売株式会社 | 13,226 |
| 日鉄住金関西工業株式会社 | 2,887 |
| 有限会社坂本文昌堂 | 2,415 |
| 株式会社バンザイ | 1,678 |
| その他 | 3,961 |
| 合計 | 56,923 |

期日別内訳

| 期日別 | 金額(千円) |
|----------|--------|
| 平成24年12月 | 120 |
| 平成25年1月 | 12,767 |
| 2月 | 17,168 |
| 3月 | 24,248 |
| 4月 | 1,149 |
| 5月 | 1,468 |
| 合計 | 56,923 |

八．売掛金

相手先別内訳

| 相手先 | 金額(千円) |
|--------------------|-----------|
| リコーリース株式会社 | 817,909 |
| 昭和リース株式会社 | 230,634 |
| シャープファイナンス株式会社 | 188,778 |
| 三井住友ファイナンス&リース株式会社 | 166,995 |
| ひろぎんリース株式会社 | 54,078 |
| その他 | 807,849 |
| 合計 | 2,266,245 |

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

| 当期首残高 (千円) | 当期発生高 (千円) | 当期回収高 (千円) | 当期末残高 (千円) | 回収率(%) | 滞留期間(日) (A) + (D) |
|---------------|---------------|---------------|---------------|------------------------------------|----------------------|
| (A) | (B) | (C) | (D) | $\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$ | 2 (B) 366 |
| 2,116,627 | 16,424,096 | 16,274,478 | 2,266,245 | 87.8 | 49 |

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

二．商品

| 品目 | 金額(千円) |
|------------|--------|
| システム販売分野 | 62,280 |
| システムサポート分野 | 33,538 |
| 合計 | 95,819 |

ホ．貯蔵品

| 区分 | 金額(千円) |
|--------|--------|
| 保守部材 | 3,946 |
| 販促物貯蔵品 | 361 |
| 用度品他雑品 | 1,385 |
| 合計 | 5,692 |

へ．未収入金

| 相手先 | 金額(千円) |
|---------------|-----------|
| りそな決済サービス株式会社 | 637,737 |
| 品川税務署 | 38,225 |
| BSサミット事業協同組合 | 16,559 |
| 株式会社アビツ | 9,632 |
| リコーリース株式会社 | 7,331 |
| その他 | 568,019 |
| 合計 | 1,277,506 |

ト．繰延税金資産

繰延税金資産は1,236,868千円であり、その内容については「1 財務諸表等 (1) 財務諸表 注記事項(税効果会計関係)」に記載しております。

流動負債

イ．支払手形

相手先別内訳

| 相手先 | 金額(千円) |
|--------------|--------|
| 株式会社コーユービジネス | 44,421 |
| 株式会社三協舎印刷所 | 10,333 |
| 株式会社キーエンス | 7,585 |
| 日本プリメックス株式会社 | 6,811 |
| 光洋紙工株式会社 | 6,494 |
| その他 | 8,144 |
| 合計 | 83,792 |

期日別内訳

| 期日別 | 金額(千円) |
|----------|--------|
| 平成24年12月 | 21,106 |
| 平成25年1月 | 34,727 |
| 2月 | 24,033 |
| 3月 | 2,916 |
| 4月 | 493 |
| 5月 | 514 |
| 合計 | 83,792 |

ロ．買掛金

| 相手先 | 金額(千円) |
|-----------------|---------|
| 富士通株式会社 | 146,437 |
| 株式会社沖データ | 42,910 |
| ソフトバンクBB株式会社 | 34,225 |
| ダイワボウ情報システム株式会社 | 16,052 |
| 株式会社コーユービジネス | 15,066 |
| その他 | 63,213 |
| 合計 | 317,906 |

ハ．未払金

| 相手先 | 金額(千円) |
|---------------|-----------|
| 株式会社リーディングソフト | 43,126 |
| 翼システム株式会社 | 40,399 |
| 富士ソフト株式会社 | 33,419 |
| 日進パーツ商会 | 32,252 |
| 有限会社いわきラジエーター | 32,094 |
| その他 | 1,903,704 |
| 合計 | 2,084,995 |

(3)【その他】

1. 当事業年度における四半期情報等

| (累計期間) | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 当事業年度 |
|----------------------|-------|-------|------------|------------|
| 売上高(千円) | - | - | 11,188,468 | 15,641,996 |
| 税引前四半期(当期)純利益金額(千円) | - | - | 1,071,792 | 2,035,585 |
| 四半期(当期)純利益金額(千円) | - | - | 337,847 | 815,309 |
| 1株当たり四半期(当期)純利益金額(円) | - | - | 15.04 | 36.30 |

| (会計期間) | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 |
|------------------|-------|-------|-------|-------|
| 1株当たり四半期純利益金額(円) | - | - | 4.43 | 21.26 |

(注) 1. 当社は、平成25年3月22日付で東京証券取引所市場第一部に上場いたしましたので、当事業年度の四半期報告書は提出していませんが、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間及び第3四半期累計期間の四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により四半期レビューを受けております。

2. 当社は、平成24年9月18日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。当事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。

2. 重要な訴訟事件等

当社は、翼システム株式会社から当社の前身であるアイ・ティー・エクス翼ネット株式会社への営業譲渡に関連して発生し残存していた債権額の支払等を求めて、平成24年11月2日付で、東京地方裁判所に対し、翼システム株式会社を被告とする訴額186,681千円のサービス利用料等請求の訴えを提起しており、現在係争中の状態にあります。

当社は、当社が開発・提供する「旅行業システムSP」のデータベース部分に対する著作権侵害等を理由として、東京地方裁判所に対し、株式会社アゼスタ並びに同社役員及び従業員を被告とする訴額1,262,002千円のデータベース著作権侵害差止等請求の訴えを提起しており、現在係争中の状態にあります。

第6【提出会社の株式事務の概要】

| | |
|--|---|
| 事業年度 | 毎年1月1日から12月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎事業年度末日の翌日から3ヶ月以内 |
| 基準日 | 毎年12月31日 |
| 株券の種類 | - |
| 剰余金の配当の基準日 | 毎年6月30日 毎年12月31日 |
| 1単元の株式数 | 100株 |
| 株式の名義書換え 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 名義書換手数料 新券交付手数料 | - - - - - |
| 単元未満株式の買取り 取扱場所 株主名簿管理人 取次所 買取手数料 | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 - 無料 |
| 公告掲載方法 | 当会社の公告の方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.broadleaf.co.jp/company/ |
| 株主に対する特典 | 該当事項はありません。 |

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨を定款に定めております。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券届出書（有償一般募集増資及び売出し）及びその添付書類
平成25年2月15日関東財務局長に提出。
- (2) 有価証券届出書の訂正届出書
平成25年3月4日及び平成25年3月12日関東財務局長に提出。
平成25年2月15日提出の有価証券届出書に係る訂正届出書であります。
- (3) 臨時報告書
平成25年3月22日関東財務局長に提出。
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号（主要株主の異動）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書

平成25年3月29日

株式会社ブロードリーフ
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山本 守

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 杉山 勝

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ブロードリーフの平成24年1月1日から平成24年12月31日までの第4期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ブロードリーフの平成24年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれておりません。